

810.7-Mo66ㄅ



1200500753255



×  
複写

協和叢書  
第十六輯

國語の教へ方

財団法人中央協和會編



始





協和叢書第十六輯

99  
1

朝鮮總督府編輯官 森田梧郎述

國語の教へ方

法財人團  
中央協和會





810.7  
Mo.66

## 國語の教へ方

朝鮮總督府編輯官 森田 梧郎

御紹介をいただきました、私森田でございます。この度び中央協和會の方から皆さん方に「國語の指導について」といふ話をするやうにといふおいひつけを受けたのでありますが、皆さんはどなたも朝鮮人の勞務者の指導、殊に國語の指導には最も御熱心にお骨折りになつていらつしやるといふことを承りました。只今の御紹介の言葉にもありません。私には長らく朝鮮にゐて、朝鮮人の子弟に與へる教科書、中でも國語の教科書の編纂に携つてをるものであります。それで朝鮮人に對する國語教育、もつと大きく申しますと、朝鮮における國語教育の問題には少なからず關心をもつてゐる一人でございます。

内地と朝鮮と、土地は遠く離れてをりますが、皆さん方の携つてをります仕事と、私の携つてゐる仕事とは、全く途は一つでありまして、今回皆さんにお話申し上げる機會を與へて戴いたことも因縁の淺からぬものを感じるのであります。

朝鮮及び朝鮮人に對して皆さんがどのやうに御理解になつてをりますか、このことは從來の御研究によりまして深



い朝鮮及び朝鮮人に對する理解、認識をもつてゐられることと信じますが、御承知のやうに朝鮮は長くも明治天皇が「東洋ノ平和ヲ永遠ニ維持シ帝國ノ安全ヲ將來ニ保障スル」爲に明治四十三年に我國に併合致したのであります。明治四十三年八月二十九日にお下しになりました韓國併合の詔書……よく日韓合併といふ言葉を使ふ方がありますが、この用語は宜しくありません。説明までもありませんが、決して日韓は合併したのでなくて日本が朝鮮を併合致したのであります。この韓國併合の詔書の中に次のやうなお言葉が拜されるのであります。「……民衆ハ直接朕ガ綏撫ノ下ニ立チテ其ノ康福ヲ増進スヘク……」かういふやうに仰せられてゐるのであります。即ち一視同仁の大御心によつて朝鮮人は私共内地人と等しく大日本帝國の臣民として、陛下の赤子としておいつくしみをいたたくといふ有難い大御心を戴いてゐるのであります。それでございますからこの朝鮮人、只今のところ二千三百萬人といはれてをります。この二千三百萬人の新しい帝國臣民を立派な日本帝國の臣民に育て上げる、この頃の言葉で申しますと皇國臣民に育て上げるといふことは、有難い明治天皇の大御心に應へ奉る所以でありまして、お互におろそかならぬこの大きな仕事に携つてゐることは、殊に今日の朝鮮は大陸前進の兵站基地として極めて重要な役割を演じてゐるのであります。更に又大東亞共榮圏の建設といふ世界史上曾てない大事業を成し遂げますについては朝鮮並に朝鮮人の擔ふ使命は極めて大きく、この朝鮮及び朝鮮に關する仕事に携はることが出来ることはこれ亦御奉公の一つかと考へるのであります。承りますと皆さんの御指導になつてをられます朝鮮人は教育の程度なり、生活の程度或は一般教養の程度にはいろ／＼の段階があるやうに聞いてをりますが、こちらから戴きました講習會の要旨によりますと、此度お集りの皆さんが直接御指導になつて居る朝鮮人は専ら炭礦に働いてゐる労働者のやうであります。或はさうした關係から教育の程度も概して低く、中には目に一丁字もないといふやうな朝鮮人もゐることと思はれるのであります。假にさう

だと致しますと、日々の皆様の御指導は随分御苦心の多いことと察せられます。しかし私から申しあげるまでもなく、石炭の増産といふことは、大東亞戰爭を勝抜く爲に、一塊の石炭でも多く増産しなければならぬといふ情勢にあるやうに考へられます。その石炭の採掘に従事してゐる勞務者を指導致して、その資質を向上させるといふことは、總てそのまゝ大東亞戰爭の一翼を擔ふものであるといつても過言でないのであります。だん／＼承りますと、皆さんの中には朝鮮の方に度々いらつしやつて、朝鮮のことをよく御承知の方もゐらつしやるやうであります。従つて皆さんの朝鮮及び朝鮮人に對する理解認識は相當深いものがあらうかと考へてをりますが、一般に——これは皆さんも多分御同感と思ひますが——内地に居る内地人の朝鮮及び朝鮮人に對する認識は、私共の目から見れば極めて乏しい、貧しい、かういふことがいへるのではないかと思ふのであります。

昨年私が東京へ參りました時に、こちらにゐる中學時代の友人の一人が私にかういふやうな質問をしました。「君、一體京城には日本人がどれくらゐ居るのか。」と、私はその質問に對して言下に、「まあ百萬人だらう」……事實今日は百二十三十萬人になつてをりませうが、「まあ百萬人ぐらゐだらう」と、かういふやうに答へました。さう致しますと、その友人が更に私に、「ちや朝鮮人はどれくらゐ居るか。」「さあ朝鮮人は七十萬人ぐらゐだらう。」この私の答を掴まへてその友人が、「ちやあ京城の人口は百七十萬か。」かういふ質問であります。實際は今申しましたやうに京城の昨年一月頃の人口はまあ大體百萬、私が「京城に居る日本人はどれくらゐか。」といふ友人の間に百萬と答へたのは、朝鮮人も立派な日本人でありますから、その中に朝鮮人と内地人が含まれて居るのであります。些か言葉尻を掴まへるやうではあります。この一つの挿話が内地の、而も東京に居る相當な知識人の朝鮮に對する認識の一般を物語つて居りはしないか、かういふやうに考へるのであります。流石に「朝鮮には虎はどうだ。」といふやうなことは今日で

967E  
141



は何處へ行つてもいはれないやうであります。無理もないことでありまして、京城においてになつた方は御承知のやうに、今日京城の生活、京城の各般の文化の施設、設備といふやうなものは、規模の大小はありませうが、東京などと先づ變りはない。電車もバスも京城の市内を走り、郊外を走つて居ります。デパートもあれば映画館も十幾つあるといふやうに、私どもは殆ど朝鮮に居るといふやうなことを考へずに生活して居ります。私共が役所へ参りますと、私の部屋にも朝鮮人の同僚が居りますが、その諸君は全くもう日本人になりきつて居る。無論朝鮮語は使はないで、立派な國語を操つてをりますので、私共は殆ど朝鮮に居るといふことを念頭に置かずにくらして居るのであります。内地に比べて全體から申せば民度並に文化の水準はまだ一低うございます、この間も放送關係の方といろ／＼話したのでありますが、内地ではラジオの聴取者が二戸に對して一戸といふ割合に普及してゐるさうであります、現在朝鮮では放送局が十ヶ所ぐらゐりますが、聴取者の比率は二軒に對して一軒といふところにはまだまだ前途程遠いことと思ひます。さういふやうに朝鮮の文化なり民度は内地の水準とは比較になりませんが、所謂立ち上つた朝鮮は「前進する朝鮮」といふ冊子をこの頃出して相當廣く頒布してゐるのであります、それらを御覽下されば分るやうに、遅ればせながら朝鮮並に朝鮮人は今非常な熱心と努力とを以て内地人の後を追ひかけて居るのであります。物質方面はさておいて、精神的方面でその一面を物語るやうな一二の例を申しあげませう。朝鮮では、京城は勿論、どんな山の中でも朝の七時になりますと、ところによつてはサイレン、ところによりましては鐘その他の合圖によつて、宮城遙拜を致してをります。正午には、十二時のサイレンを合圖に正午の黙禱と申しまして、皇軍將兵の武運長久を祈り、英靈に感謝し、銃後の奉公を誓ふといふ精神を以て三十秒の黙禱を捧げてをります。今日は丁度大詔奉戴日であります、朝鮮の津々浦々では六時三十分からそれ／＼常會の集りを致しまして、所謂大東亞戰爭を勝ち抜く決意

を新にしてをります。このやうに遅ればせではあります、今朝鮮は非常な熱心と努力を以て精神方面にも内地人の後につづかうと努めてゐるといふことは、朝鮮人の御指導に當つてゐる皆さん方が一應心に置いて無駄でないかと思ふのであります。そんな譯で朝鮮及び朝鮮人に對する正しい認識を持つといふことは皆さん方にとつて誠に重要なことで、この講習會でもその方面の權威をお招きになつて、それ／＼専門の講義が續けられてゐるやうであります。詳しいことは私に申上げる力もありませんし、また専門外でありますから諸先生の講義に譲りますが、言葉の方面、國語の指導の方面に關聯づけて少しく朝鮮人を物語つてみたいと思ひます。

第一に言葉が通じない、生活の様式、風俗、習慣などの違ひ、さういふやうなもろの點から皆さんの御指導も随分骨もをれ、苦勞も多からうかと思ひますが、従つて、どうも朝鮮人は手におへないといふやうな嘆聲が時には人情の常として漏らされるかも知れません。殊に鑛山に働いて居る者は比較的ひくい人達ですから、さういふ點は少なからうかと思ふのであります。無理もないことであります。

こゝで一つ——或は誰方かの話に出たかと思ひますが——朝鮮人は愛情に飢えて居る、かういふことを少しお話してみたいと思ふのであります。朝鮮人は人の情に飢えて居る。そのもとをたづねると随分遠い昔に遡るかと思ひますが、直接には李朝四百年の政治が誠に韓國のあの末路を招來した大きな原因になりました。李朝四百年の政治は疲弊そのものであつたといはれてゐますが、その間に生きて來た朝鮮人でありますから、いろ／＼考へ方なり、ものの感じ方、さういふものが歪められて居ます。李朝の前の高麗朝には佛教が大いに榮えました。ところが李朝はその政策から極度に佛教を壓迫しました。ですから朝鮮人には——これは絶對ではありませんが——宗教がない——といふよりも信仰心に薄いといふ方が當つてゐるかも知れません。そこへ明治になりました英米、主にアメリカ系だと思ひま



すが、宣教師がどんどん入つて來ました。従つて朝鮮におけるキリスト教の普及は誠に目ざましいものがありました。けれども根が虐げられた李朝四百年の政治の中に育つた朝鮮人でありますから、吾々のやうに眼に見えないものに手を合せるといふ氣持はなかなか理解が出来ないやうです。宮城遙拜といふやうなことを彼等に理解させるには並大抵の努力ではない。さういふやうな點から愛情の問題に話を進めるのですが、親子關係といふものが吾々内地人のそのやうに決して濃かでない。もつとも例外はありまして、新しい教育を受けた人達は今私が話したことからは例外として考へて戴きたい。この席でお話し申すもどうかと思ひますが、朝鮮には古くから蓄妾の風がかなり行亘つて居る。このことが朝鮮の家庭生活を愛情のまどろんでなくて、その逆のものにした。無論貧富の差もありますから朝鮮人のすべてが妾を蓄へるといふことは、これは出来もしないし、又してもゐないのであります。子供が生まれると先づ乳母の手に渡す。乳母の手を離れるやうになると家庭教師の手に移つて行く。お父さんはたまに家に歸つて來る。而もさういふやうな關係で父親といふものは子供の近づき難いもの、かういふやうな考へが朝鮮人にはかなり深く染み込んでゐるやうであります。ですから父親の愛、一家の團欒といふやうなことは古い朝鮮人の家庭には極めて乏しい。内地人であれば日曜とか祭日、殊に追々氣候もよくなりますと、(今も控室でお話したのであります。朝鮮はこの九月から十月にかけて實に快適な氣候です。空がこんなに曇つてをりませぬ、底が抜けた程晴れてをります。九月、十月といふ氣候があるから朝鮮の生活が棄てられないといふ人がある程に朝鮮の秋は誠に好適であります)日曜ともなると近郊の山などは子供を連れだした多くの内地人で賑ふのですが、子供を連れだした朝鮮人の夫婦を見ることは——今日は段々ありますけれども——十年前などは殆ど見られなかつたのであります。さうした家庭で育つてをります關係で、親子の情愛といふやうなものは極めて薄い。皆さんも多分御覽になつて御承知かと思ひますが、朝鮮人は食事

を致しますお膳がありますが、これはなか／＼雅致のある立派なものです。そのお膳で食べるに、吾々の内地の生活では銘々のお膳で——今日では食卓に段々變つて來てをります。家族が五人あればお膳が五つあるわけですが、朝鮮の家庭ではその一つのお膳に朝なら朝の仕度をして、その家の主人である、子供からいへば父親のところに据ゑる。そして父親は一人でそのお膳のものを食べる。決して親子差向かひとか、夫婦差向かひで一つお膳では食べない。家長が先づ食べる。食べたものをその次に下けて、その次が食べる。段々下へ下へ下けて、結局一家の家族のものが食べる。かういふやうな習慣になつて居るやうです。もつともこれにも例外がありまして、新しい生活殊に内地人の生活を取入れた家庭では吾々のやうに食卓で一家團欒の生活をしてゐるものもあるが、まだ／＼上に述べたやうなことが行はれて居ます。かういふやうなことから、朝鮮では親子の愛情、或は夫婦の愛情といふやうなものが吾々と比べてまして薄いと一般にみてゐます。このことが言葉に反映してゐます。言葉は生活の衣といはれますから當然のことです。ありますが、朝鮮語では、堀先生から段々お話があつて御承知と思ひますが、敬語が多少吾々の敬語と趣を異にしてゐます。この間も、京城にある女子の専門學校へ話しに行つたのですが、その時も話したことですが、私ども内地人の子供は、國民學校の五年、六年、或は中等學校にもなれば、「うちのお父さんが」とか、「お母さんが」とかいはないで、小さい時の「お父さん」なり「お母さん」といふ呼び方は「父」なり「母」なりに置換へられます。これが吾々の習はしであります。ところが朝鮮人は「父」とか「母」とかと呼び捨てにしません。「父」とか、「母」とかと敬稱を略して呼ぶことは絶対に許されません。この點になると、親子の關係誠に濃かなものがあるやうに思はれますが、それは形式化して魂のない言葉のみが残つてゐるやうであります。ですから朝鮮の諸君は相當以上の年輩になつたものでも「家のお父さんが」とか「お母さんが」とかいふことを平氣で話します。かういふことが朝鮮人の言葉



にみられます。それと反對に下のものに對しては、特に親が子供に對する時には、私共の家庭では「正ちゃん」とか「よし子ちゃん」といふやうに呼ぶが、朝鮮人の家庭では、殊に下層の社會になりますと子供に愛稱をつけて呼ぶといふことが先づなさうです。それはかりでなくて、國語でいへば「この野郎」とか「この餓鬼」といふ言葉がに相當する卑語が平氣で使はれてゐるやうです。つまり子供は小さい時から厄介者、無能力者といふやうに待遇されて、子寶といふやうな觀念はうすいやうであります。このことが聽て親の愛情に飢えるといふことになるのであらうと私は考へて居ります。

それで國民學校では、朝鮮では、昨年内地と同時に國民學校の制度になつたのでありますが、朝鮮人の子供を教へてゐる國民學校の先生の中には、内地人の先生がほぼ半分ぐらゐ入つて居ます。單純に考へると朝鮮の子供だから受持の先生が朝鮮人であることを希望して居る朝鮮人の訓導が子供に喜ばれるやうに考へられます。これが人情の普通だらうと思ひます。事實はその逆で、内地人の先生に受持つてもらへることを非常に望んでゐます。それにはいろいろな理由がありませうが、結局目下のものに對する朝鮮人の構へ方に愛情が乏しい、つまり愛をもつて導かなければならない學校の先生でも當り方が強い、言葉を換へていへば愛情に乏しい、それに比べて内地人の先生は違ふのであります。私の隣に朝鮮人の國民學校に勤める先生が住つて居りますが、よくその先生の宅へ日曜とか祭日になりますと受持の子供が遊びに來ます。無論先生に對する尊敬の念もあり、又内地人の家庭生活に一種の憧れをもつといふこともありませうが、結局何となく情をかけてくれる内地人の先生がなつかしい、その心の現はれであらうかと考へられるのであります。このことは人を教へるもの、皆さんのやうに朝鮮人の指導に當る方にとつては一應はお考へになつておいて無駄でないと思ふのであります。人間と人間の情は互に通ふに違ひないのであります。ですからこちらが情を

かけると、その情に感ずる、これが人情の常であります。ところが今申したやうに朝鮮人は子供の時から親の、或は長上の愛情といふものを餘り受けてゐない、かういふやうな點から私が朝鮮人は愛に飢えて居る、かういふやうに申したのであります。

申すまでもなく教育は愛を根本にするもので、愛情のないところに人を教へ導くといふ貴い仕事は決して美しい實は結びませぬ。このことは或は此度のお話の最初に申上げてよいことと思ふのであります。而も言葉の教育、言葉の指導には愛といふことが誠に大事なことであります。禪宗の創始者は道元禪師といふ名高い坊さんであります。この道元禪師の書かれました本に「正法眼藏」といふ本があります。その中にかういふ言葉があります。「怨敵を降伏し君子を和睦ならしむること愛語を根本とするなり。向かひて愛語を聞くは面を喜ばしめ、心を樂しくす、向はずして愛語を聞くは肝に銘じ魂に銘ず」……中を少し略しまして、結びの句は「愛語能く廻天の力あることを學すべきなり。」と、私共はことばの教育を考へる場合、國語教育を説く場合に何時もこの言葉の前に襟を正すのであります。この言葉は多く皆さんのお仕事の上に力を與へてくれることと思ひます。殊に言葉を異にして居る朝鮮人の指導に慈みの心、愛語をもつて臨むといふことが根本の問題だらうかと思ひます。さきに申しあげたやうに、朝鮮人はおひ立ちから愛情に飢えてゐます。この人達を導くのに愛情の籠つた言葉をもつてする、この愛情のこもつた言葉を平素口にするといふことは、やがて吾々の心を豊かに養ひ培ふ道にもなる、かういふやうに私は考へるものであります。

大變前置きが長くなりましたが、順序と致しまして、此度の講習の題目に朝鮮の教育に觸れたやうな題目が一寸見當らないやうにも思ひますし、話を進めて行く上に一通り朝鮮教育の大觀と申しますか、さういふことを順序として申上げてみたいと思ふのであります。新聞その他で御承知でありませうが、朝鮮にも、朝鮮人に對して昭和十九年度



から徴兵制が實施されることになりました。今年の五月にその発表がありました。このことは現在朝鮮及び朝鮮人が如何なる段階にあるかといふことを、更にまた國家が朝鮮及び朝鮮人によせる期待が奈邊にあるかを有力に物語るものではありませんでせうか。既にこの計畫は一昨年あたりから進めてをつたのでありますが、教育の方面では義務教育を布くといふことが今日の朝鮮教育における中心の問題になつてゐます。學務局の事務官は早くからこちらに參つてゐますが、昨日私は事務所で會ひました。全く義務教育制度實施について中央政府との打合せの爲に來てゐるのであります。いよ／＼何年から義務教育が實施されるか、今のところ申上げることが出来ませぬが、極めて近い將來に朝鮮人に對して義務教育の制度が布かれます。内地における教育史を緝けば、内地に義務教育制度が布かれたのが明治維新から何年後かといふことがお分りであるやうに、義務教育制度を布くといふことは相當教育が普及した、民度が向上したといふことの一つの證據とならうと思ひます。この一事で今朝鮮の教育が辿りつゝある足取りといふものを大約御想像願へるだらうと思ひます。申すまでもなく教育のことは朝鮮統治の根本の問題であります。歴代の總督閣下はこの教育の問題を何時も重要な政綱に取上げられてゐるのであります。

朝鮮の教育のことは沿革的に辿りますと話は長くなりますが、序でに極く概略を申し上げます。最初に申上げて置きたいことは、明治四十四年、併合の翌年既に朝鮮には教育令が布かれました。これは専ら朝鮮人に對する教育の制度であります。その年の十月に長くも教育に關する勅語が朝鮮總督に御下附になりました。ですから朝鮮では勅語捧讀の場合に内地におけるそれと違ひまして、御名御璽の後に、

朕曩ニ教育ニ關シ宣諭スルトコロ今茲ニ朝鮮總督ニ下付ス

とあつて、こゝに朝鮮總督に下賜せんとすといふことがあります。つまりこの教育勅語の御下賜によりまして半島教

學の根本は確立された。その後教育令は大正十一年、それから昭和十三年、更に昨昭和十六年と度重ねて改正されてゐます。昭和十三年の教育令の改正、これは實に朝鮮教育史に一紀元を劃するものでありまして、それまでは、つまり昭和十二年度までは學校規定の上では朝鮮人の教育と内地人の教育が別になつてゐます。即ち内地人は小學校令により、朝鮮人は普通學校規程によつて教育され、無論學校は別でありました。中等教育も普通教育ですから、内地人は中學校令、高等女學校令により、朝鮮人は高等普通學校規程、女子高等普通學校規程によつて、教育されてゐました。それが昭和十二年までつづきました。無論實業學校や師範學校や専門學校は早くから内鮮一つの法規によつて教育しました。従つて學校も一つの學校でありました。從來何故普通教育におきまして朝鮮人と内地人を別々に教育したのでありませう。それは主として國語を常用するものと、然らざるものといふことで區別を立ててをつたのであります。ところが十三年の教育令の改正によりまして、國語を常用するものと、然らざるものといふことは公の文書の上から全く姿を消してしまひました。さうして嘗ての小學校と普通學校は小學校令に統一されて、朝鮮人と内地人は一本の小學校令によつて教育されるやうになりました。中等學校におきましても、内地人は中學校、女學校、朝鮮人は高等普通學校系統であつたのですが、均しく中學校、女學校といふやうに名稱も變つて、教育の據りどころである法規も一つになりました。つまり昭和十三年の教育令の改正によりまして教育の上における内鮮の別といふものは全然取り除かれてしまつたのであります。ですから今日では内鮮とも何々中學校であります。その中で或るものは主として朝鮮人の居る學校であり、或るものは主として内地人の居る學校であつても、その區別は名稱の上では全く分りません。さうして實際は、これは教育の精神からなくて、學校經營の經費の負擔關係といふやうな點から、まだ内地人と朝鮮人が全く一つの學校にといふことにはなつてゐないやうであります。事實は今日でも主として朝鮮人の居



る國民學校、それから主として朝鮮人を收容してゐる中學校といふ風に分れてをります。これは教育の精神からでなく、經費の負擔關係から暫くは一つの學校にすることが出来ないであります。然し中學校なり女學校は昭和十三年の教育令改正以後に新設されました學校は例外なく内鮮共學です。京城にもさういふ中學校と女學校が新しく出來てをります。例へば女學校では舞鶴女學校、中學校では旭ヶ丘中學校といふのは内鮮略々半々に生徒を收容して居る學校であります。

十六年に内地同様に朝鮮にも國民學校令が布かれました。無論内鮮の區別のないことは従前の教育令同様であります。さうして皇國臣民の鍊成といふことを教育の指標に致しまして、只管忠良なる皇國臣民の鍊成に邁進してゐる——これが極く大雑把な朝鮮教育の歩んで來た道であります。

つぎに學校の普及、さういふやうな點から多少數字を擧げて朝鮮教育の一面を申上げてみたいと思ひます。詳しい數字は、後で差上げるプリントについて御承知願ふことに致したいと思ひます。併合當時即ち明治四十三年になりませんが、朝鮮人を教育する普通學校、つまり内地の小學校です、その普通學校の數は全鮮を合はせて百校、生徒の數は一萬五千人。その百校、一萬五千人の學校數になり兒童數が今日どのやうに殖えてゐるかと思ひますと、十六年度の統計です、今年のは今整理中で間に合はなかつたので、十六年の五月現在によりますと、朝鮮人を收容してゐる學校の數が三千二百十八校、兒童數が百五十七萬一千いくら、もう百六十萬には大丈夫なつて居るだらうと思ひます。朝鮮には國民學校の外に簡易學校といふものがあります。簡易學校といふのは文字通り簡易な教育を主とする、読み書き、それに農業を主とした實業を授けるといふやうなことが大體の目的になつて居る學校で、修業年限が二年です。まあ二年で一と通り國語を解するといふやうな點を狙つてゐる學校で、この學校が僻遠の地には相當普及してゐるま

す。十六年の統計によりますと千五百五十八校、生徒の數が十四萬六千人、それと、これとを合はせて考へますと、現在の就學分合は大體五割見當になつて居ます。就學年齢に達した子供の半分は先づ學校教育を受けて居る。無論この國民學校の中には私立の學校も入つて居ります。明治四十三年には學校の數が百、兒童數が一萬五千、それが今日では學校數が今申したやうに三千二百あまり、兒童數が總て百七十萬にならうとして居ます。これは今日における朝鮮教育の普及の狀態を物語るものであります。

これも御承知と思ひますが、朝鮮には一面一校といふ言葉があります。面と申しますのは内地の村であります。朝鮮の教育の普及の或る時代、これは齋藤總督の晩年かと思ひますが、一面一校の制を立てて、面に一つは必ず學校を置く、これが昭和十七年度に完成して、今日では——無論面と申しても内地の香川縣よりも大きな面がありまして、一概に内地の村の一つぐらるといふ話とは一寸見當が合はないのでありますけれども——兎も角面に學校が一つはある。それに簡易學校が幾つかあります。これは國民學校のことでありますが、この初等學校に従ひまして、中等學校なり専門學校もかなりな……かなりといへないかも知れませぬが、上は大學から下は國民學校といふことをよくいひますが、京城に京城帝國大學がありまして、そこに法文學部、醫學部、理工學部の三つの學部があります。無論それに大學豫科があります。こちらの高等學校に相當するものです。それから専門學校には醫學専門學校、高等工業、高等商業、高等農林、高等水産、それから鑛山専門學校といふものがあります。官公立合せて約二十校の専門學校があります。中學、女學校は相當な數に上つて居りまして、結局數で申しますと、初等學校の約百七十萬に對して中等學校の生徒の數は約八萬七千、それから専門學校が四千、大學が、これが少くて三百。學校に籍があるものは、學生、生徒、兒童といふものを合はせまして、大雑把にみて、約二百萬人ぐらゐるものが學校で勉強して居るわけで



す。師範學校のことを言ひ落しましたが、京城に男子の師範學校、女子師範學校各一校、それから十三道のうち、師範學校のないのは黃海道と咸鏡北道の二道だけで、あとの各道には師範學校があります。(昭和十八年度には新たに三つの師範學校ができます)大體朝鮮における教育の情況は以上申述べたやうなことになるつてをります。

前に申上げました朝鮮教育の概略は、それから申上げる國語の普及状況についての地均らしといふやうな積りもあつたのであります。朝鮮教育の特徴は何か、かういふ質問があつた場合に、私共は、それは皇國臣民の鍊成、とかう答へますが、その方法と致しまして朝鮮の教育は國語中心の教育であります。このことは今日の國民學校の毎週教授時數の中に占めてゐる國語の教授時數を申上げれば直ぐ御理解願へるだらうと思ひます。國民學校になりましてからの毎週の國語の時間を申上げますと、一年は十時間、二年が十一時間、それから三年が九時間四年が八時間、五年が七時間、かういふやうになつてゐて、どの學年も毎日一時間は國語の時間があります。このことは内地の國民學校の教授時數に比べますと、一年から三年までは毎週一時間乃至二時間多くなつてゐます。國民學校規程の中に次のやうな一句があります。これは從來の普通學校規程、小學校規程にもあつたものですが、「授業用語ハ國語ヲ用フベシ」……朝鮮語で教育してはいけないといふことがその裏にあらうと思ひます。ですから國民學校では學校に入つたその日から全然國語による教育を受けて居る譯であります。朝鮮人に對する國語教育……朝鮮人に限りませぬ、異民族に對しての日本語の教授の方法としては直接法と對譯法、かういふものがあります。朝鮮では最初から對譯法は採らないで、専ら直接法でやつてゐます。ですから教師が兒童を指導する場合に朝鮮語は使はない。國語を朝鮮語に翻譯して教へるといふ對譯法は全く使はない。ですから朝鮮語を全然知らない内地人の訓導で、始めて入つて來た朝鮮人の一年の擔任をするといふことが珍しくないであります。珍しくないばかりでなくて、私どもは寧ろその方を

勧めてゐるのであります。朝鮮人の教師中にも立派な國語を使ふ方が少くありません。けれども何といつても内地人の國語と朝鮮人の國語には餘りに當然なことではあるが、正しさにおいて、美しさにおいて隔りがあります。最初から正しい、美しい國語に耳を馴らすといふことが國語教育の第一義であります。さういふ見地から總督府としてはなるべく、そのいゝ國語の持主である内地人の訓導が新一年を受持つやうにといふことを勧めてゐるのであります。古い調査ではありますが、昭和十四年の六月に、(當時はまだ小學校です)朝鮮人の小學校の一年を擔任してゐる朝鮮人訓導と内地人訓導の内譯を調査してみたことがあります。その調査の結果によりますと學校の數が(一年生)三千八百二十二で、そのうち内地人訓導の擔任してゐる學級數は四百七十五で、全體の約一割二分にあつてゐます。この四百七十五人の、朝鮮語を全く知らない一年生の子供を教育するその苦心がどんなものであつたかは——容易に御想像願へるだらうと思ひます。文字通り荊の道であります。然しその荊の道がやがて高嶺の月を眺める、吾々の願はしい國語教育の到達點に達する實は近道であるのであります。全く國語の分らない子供を受持つてから二時間なり三時間、全然身振り手振り教育するといふことの苦心、これはその人でなければ分らないと思ひます。けれども一學期経てばもう朝鮮人の訓導の受持つた學級よりも國語の力がつくのであります。特に目立つのは國語の語彙の豊富なことでありまして。それから發音の正しいことでもあります。發音の問題は後にもお話申し上げますが、最初に正しいものが入らなければ、といふよりも最初に正しい發音に耳が馴らされなければ、訛つた歪んだ發音の矯正といふことは、努力によつては或る程度出來ますが、どうしてもぬけ切れないものが残ります。かういふやうな點において内地人訓導が入學當初の朝鮮人の子供を受持つことを私共は極力勧めて居るのであります。

朝鮮の教育、殊に國民學校の教育は先づ國語、明けても暮れても國語といふことを目標にした教育を勧めてをりま



す。ですから學童を通じての國語了解といふことは相當急速に進んでゐます。何と申しましたも朝鮮における國語普及の根本の力は學校教育であります。學校教育が中心になつて、やがて家庭に及ぼし、部落に及ぼし、廣く社會に及ぼす。かういふやうな點におきまして今日朝鮮では國語全解運動……皇國臣民二千三百萬人が一人残らず國語を解する——これを目標にして、文字通り打つて一丸となつてひたむきにその道に進んでゐるのであります。その國語普及の原動力といふものが學校教育にあります。かういふ見地から國民學校の國語教育に吾々が期待してゐるものも頗る多いのであります。

さて今日の程度に朝鮮では國語が普及してをりませうか。朝鮮における國語普及の狀況、その調査は非常に困難な問題であります。そのことはプリントにも用意してありますが、大體朝鮮總督府から施政年報といふものが出て居りまして、それを御覽になればおわかりになります。それには「會話に差支なきもの」もう一つは「稍々國語を解するもの」この二つの標準で國語普及の情況を調べてゐるのであります。一體「會話に差支なきもの」といふのはどの程度の會話で國語を操るものがその部類に入るかといふことが、果して十三道同一の標準によつてゐるでありませうか。これには相當研究の餘地があるやうに考へられます。或る道における「稍々國語を解するもの」が、或る道においては「日常の會話に差支なきもの」の部分に入るといふことがあるかも知れません。もともと國語普及の的確な數字を掴むには、全人口の一人々々に當つて國語の習得の如何を調査するといふことが願はしいことではありますが、それには莫大な時間と、莫大な費用を要するので、恐らくどこにもかうした調査は行はれてゐないのではないかと思ひます。

昭和十六年の統計によりますと、國語を解する者の全人口に對する比率は一割七分といふことに施政年報に出てをりますが、翻つて考へますと、國語を解するといふことは朝鮮人にとつては生きる有力な武器であります。例へば京城におきまして或る會社なり銀行、その他個人の商店でも人を傭ふ時に第一に條件になるのは國語を解するもの、かういふことでもあります。ですから國語を知つて居れば衣食の道にありつけるが、國語を知らない爲に衣食の道にありつけないといふやうなものがあります。これを大きく朝鮮全體としてみますと、國語の出来るものはそれを武器……といつては語弊がありますが、それを力にして滿洲、北支に渡り、或は内地に渡つて來てゐます。残つたものはどちらかといへば國語を解しないものが多いといふ譯になります。この残つた者を對象にして調査する調査でありますからパーセンテージが低いのはこれは無理もありません。而もこの統計には恐らくは學校に在席するものが入つて居らないだらうと思ひます。さういふやうなことを段々考へて参りますと、今日朝鮮における國語の普及はこの施政年報の上に現はれた一割七分よりは遙に高いと想像されます。もう一つ申上げたいのは、言語の問題、國語の普及といふ調査には學校就學前のものつまり赤ん坊から滿六歳以前のもの、六十歳以上のものは取り除けて調べるのが普通であります。さういふやうなことを考へると、これは推定ですが、(私一人の推定でなくて、今日朝鮮における常識になつて居りますが)六歳未満と六十歳以上のものを除いた全人口に對する國語の普及は、恐らくはその半分は國語を、無論程度の差はありますけれども、國語を解するものであらうと推定されてゐます。

今日朝鮮では國語普及のことである、骨折つてをりますが、こゝ三年の間に國語を解しないものは一人もなくするといふことを目標に國語普及に大童になつてゐるのであります。それは兎も角約半分と申しますから二人に一人は大體國語が分ります。私など日曜とか、或は地方に出張した時に、(時には相當の田舎も歩きますが)そんな時道が分らなくて困る時に道をたづねますが、田圃で働いて居る老人や婦人などは大體返答が出来ないが、學校の子供なら



無論、それから二十五六歳程度のもは大體道を教へてくれます。このやうな程度になつてゐるのであります。

昭和十六年度のことは今申しましたが、それから十年前の昭和七年の統計を申しますと、全人口に對して三分五厘餘の七十一萬といふものが會話に差支なきもの、八十三萬といふものが（四分餘）稍々解し得るものといふことになつて居ります。ところが十年後の昭和十六年には會話に差支なきものが二百九萬、稍々解し得るものが百八十八萬といふことになつて、その増加はかなり大きい。殊に十六年から今年、やがて滿一年になります。この一年における國語普及の向上は又大したものであらうと思つて居るのであります。

次に今日朝鮮ではいかに國語普及に努力してゐるかといふことを極くあらまし申上げてみたいと思ひます。朝鮮で今日國語を解しないものといふのは一體どういふ人達でありませうか、それは家庭その他の事情から學校教育を受ける機會に恵まれなかつた者であります。もう一つは先き程も申しましたやうに一面一校と申しましても、内地の小さな縣に相當するくらゐの面積のある面があります。こんな關係から教育機關が十分行きわたつてゐない爲に就學の機會を得なかつたもの、これは都會においては數は少いが地方に行けば行く程多いのであります。もう一つは婦女子です。婦人は割に保守的であります。朝鮮の風俗と致しまして婦人は内房深く閉ぢ籠つて、男に顔を見せるのは女子の嗜でないといふ向かふの習慣もありますので、男のゐる學校へ女の子をやるといふことはつい最近まで相當嫌はれて居つたのであります。今日では殆どなくなりましたが數年前までは朝鮮には女子だけの小學校なり普通學校があつたのであります。女子小學校、女子普通學校といつて、女子だけを入れて居る學校、内地には恐らくさういふ學校はなからうかと思ひますが、朝鮮にはかなり長い間女子だけの學校があつたのであります。つまり男子と分けて女子を教育した。さういふ女子だけの學校ならば子供をやるが男と一緒にならば子供をやらぬ、さういふことが朝鮮

の風習の上からかなり續いたために、婦女子で國語を了解しないものが割合多いのであります。このやうないろ／＼の情況の下に、今日當然日本人として、皇國臣民として知らなければならぬ國語を知らない憐むべき人達がかんりの數に上つて居るのであります。

申し上げるまでもなく國語を知つて居る、國語を話せるといふことは、これは日本人としての最初にして最後の資格であります。國語を話せない日本國民は考へられません。或る國語學者が「吾々は日本人だから日本語を話すのでなくて、國語を話すから日本人なのだ。」かういふことをいつた人がありますが、さういふ點からいひますと、朝鮮にはまだ國語を解しない爲に日本人ならざる日本人が居るのであります。それで朝鮮統治の方針と致しまして學校教育において國語を中心にし、又今日内鮮一體の實を擧げることが政綱の一つの大きな綱目になつて居りますが、内鮮を一つにする爲に言葉を一つにする、つまり朝鮮人に國語を興へ、朝鮮人が國語を解するやうに導くといふことが、これが當面の大きな問題であります。今日朝鮮においては朝野を擧げてこの國語全解運動に熱中してをります。無論このことは今日に始つたことでなくて既にさういふ氣運が動いて居りました。殊に十九年度から愈々朝鮮人も陛下の御楯として兵として召される光榮ある徵兵の恩典に浴するやうになりました。國語を知らない兵隊は考へられません。さういふやうなことから朝鮮人自らが進んでこの國語全解運動に立上つて居るのであります。これが今日朝鮮における國語普及運動の大體の情勢であります。これを例をひいて申上げますならば、朝鮮の代表的な新聞は京城日報といふ新聞であります。この京城日報が國語全解運動を目標にして新に今年の六月から一つの新聞を發行しました。新聞の名前は「皇民日報」といふので、これによつて國語全解運動に協力してゐます。これには段があらまして、全く始めて國語を學ぶものの爲の頁もあります。私がその方の擔當を依頼されて書き續けてをりますが、それから片假名の



ものなれば読めるといふものの頁、平假名の頁或は平假名、漢字の交つてゐるものもあります。このやうに國語全解運動の爲に新たに一つの新聞が生まれたといふことが、今日如何に朝鮮において國語普及の問題が重要に取扱はれて居るかを物語つてゐると思ひます。それから朝鮮には諺文新聞、諺文と申しますのは御承知のやうに朝鮮の假名でありませんが、諺文新聞は今日は朝鮮では「毎日新聞」といふのが京城で發行されてゐますが、これがたつた一つの諺文新聞で、従来は幾つかあつたのでありますけれども、もう朝鮮語の新聞でもあるまいといふ上の方の方針から「毎日新聞」に統一されたといふわけでありませんが、その「毎日新聞」がかなりの頁を割いて、確か一頁を割いて國語全解運動に提供してゐるのであります。朝鮮では今日、一道一新聞といふふうに通制されてゐますが、殆ど申合はせたくやうに國語を始めて學ぶものの爲に國語の頁といふものをつくつて、國語普及に協力してゐるのであります。

以上は新聞の話であります。直接國語普及の爲に全鮮到るところに、國語普及の爲の講習會が設けられてをります。これは總督府の一つの施設として、已に早く多額の豫算を計上して國語普及の運動をやつてゐるのであります。こゝにその數字がありますが、つまり國語普及の講習會、これは大體全鮮の小學校及び簡易學校でやつて、主にその學校の教師が指導に當つてをります。朝鮮の人口の約八割は農民であります。その閑の時、冬期の寒い時に約六十日以上講習を受けることを總督府の方針として定めてあります。その爲に特に國語教本といつて講習會用の教科書を作つてゐます。昭和十五年の數字で一吋古いのですが、全鮮に約八千の講習會が役所の豫算によつて行はれ、さうしてその講習を受けたものの數が四十萬ぐらゐるに上つて居ります。この外に各種の團體がいろいろな方法で國語の講習會を設けてゐるのであります。

その中で極く特殊な團體の國語普及運動のお話を申したいと思ひます。それは大和塾といふので、この大和塾は、思想犯に……朝鮮には民族的な思想運動に絡つて反國家的な思想を持つてをつて國法に問はれてゐる人が嘗てあつた、さういふ人の刑期を終つて社會に出た時に、どうせ社會からはまともに扱はれないで再び罪を犯す、或は遂に青天白日の社會に出て働くといふことにならない。それを保護善導する目的で思想報國聯盟といふものが結成されてゐます。その方の手で開いて居るのが大和塾といふ教化機關であります。これは全鮮に七ヶ所ぐらゐるに支部があつて、京城に本部があります。その大和塾で、何といつても彼等の一人々々を日本人にするには日本語を通してする以外ま途がない、國語を通すといふことが最も近道であり、最も力強いものであるといふ着眼から國語普及運動に乗り出した。さうしてその刑餘の人が、これは誠に結構なことと思ふが、嘗て反國家的な思想を持つて居つた人達が今教壇に立つて實に熱心に國語の指導に當つてゐます。それらの人は専門學校以上の教育を受けて居る人、中には學位を持つて居る人もあります。外國の學校を出たといふ人も少くない。さういふ人達が自ら教壇に立つて國語の指導をやつてをります。文部省などから朝鮮の教育情況を視察に参りますと、社會教育の一つの御参考にと思ひまして御案内するのであります。つい先達でも御案内しました。實にあの人達には熱がある。今京城に大和塾關係の講習會は七ヶ所ぐらゐるありますが、何處でも二百人近い生徒が居るやうであります。實にあの人達は熱心である。惡に強きものは善にも強しといふことがあります。誠にその指導振りは徹底してゐます。何時かもしその大和塾の國語指導の情況を觀て、間もなく府内の國民學校の先生と一緒になる機會がありました。その時に私はかういひました。「諸君も大和塾へ行つて國語指導の情況を觀るが、教授の方法に至つては恐らく諸君の方が數段上であらう、だから教授法、指導法については到底諸君の學ぶべきものはないであらうが、あの眞摯な熱、これは願はくば諸君が學んで欲しい」と。さういふものか今日の若い教師には熱がない。さういふことを考へてをつたので「あの熱を諸君が學ん



で欲しい」かういふことをいつたことがあります。誠に熱心によつてゐます。大和塾の本部はつい最近まではアメリカ系の神學校のあつたところでありました。文部省内にある日本語教育振興會から『日本語』といふ冊子が出て居ります。それに紹介をしたことがありますが、つい昨日までアメリカ人の神學校であつた校舎で刑餘のものが日本精神に目覺めて國語指導に大童になつてゐるといふことは、誠に注目すべきことであります。この大和塾の國語普及は誠に特異なもので、最も熱心で、これは一年を通してやつてゐます。長崎といふ方が塾長になつてゐますが、もともと檢事であり、非常に熱心で、「人は狂人だといふが、狂人でなければ出来ないことだ。」といつてゐます。そこでは教科書から學用品まですべて與へてゐます。この間、私がそこに参りました時に六十幾つになるといふお爺さんが自分の孫ぐらゐの小さなものと机を並べて學んでゐました。又慶南の何處かの面長の職にあつた人で、不幸にして國語を學ぶ機會がなかつたので、面長の職を辭めて夫婦携へて京城に来て一戸を構へて、そこで勉強して居るといふやうな人もゐました。町の講習會へ行つても赤ん坊をおんぶして居るものも少くありません。六十を越えたお婆さんも居るし、十四五の娘も居る。それらは恥しい盛であるが、極めて熱心に、無邪氣に國語の勉強をやつてゐるのであります。

大和塾は特殊な團體の運動であります。全體的にみてどういふやうな機關が國語普及運動の第一線に働いてゐるか、どういふやうな團體の手で國語普及運動が續けられてゐるかといふことは多分皆さんが關心をもたれることと思ひますが、朝鮮には國民總力朝鮮聯盟といふものが組織されてをります。これは下部組織を持ちまして、例へば國民總力朝鮮聯盟の下に各道の聯盟があります。國民總力京畿道聯盟といふ名前、その下に御承知でもありませんが、郡だけはこちらと一致致しまして、道は縣に當るものその次が郡、それから内地の市に當るものが府それから邑面、と

かういふやうに行政上なつてをります。道の下には京畿道何郡總力聯盟、その下に邑の聯盟、面の聯盟、更に面の下には、これは内地の字に相當するものですが、何々村字何々といふ部落ですが、部落聯盟までずつと組織網が出来上つて、内地の隣組に相當致しますものが、朝鮮では愛國班といふものになつてをります。つまりかういふやうな組織の團體が中心になつて國語普及運動をやる、一般にこの末梢の愛國班といふものが最も纏りがいい、これは内地の隣組のやうに大體私共の町で言へば大體十二三軒が一つの班になりました。其處で内地の隣組と殆ど變らない仕事をしてゐます。内地人の愛國班には國語普及のことはないのでありますが、朝鮮人の愛國班には班長が中心になつて夜分に國語普及の講習會をやつてゐます。これは數で申せば實に莫大なものにならうと思ひますが、詳しい數は調べて参りませんでした。もう一つこれも特殊のもので、國語普及運動が盛り上つてから朝鮮人側の中等學校の休暇になりました。夏や冬の比較的長い休暇になりますと地方から來て居る生徒が自分の郷里に歸へる、さういふ人達を動員して、國語普及の推進隊といふやうな名前を付けて、銘々が郷里に歸りますと、自分の村に歸つてゐる間適當な期間をとつて國語普及に當つてをる、これは前にもちよつと申しました朝鮮唯一の諺文新聞である。毎日新聞が計畫致しまして全鮮何萬の學生、生徒を動員してやつてをるのであります。大體この邊で國語普及運動のあらましが或はご理解願ひたかと思ふのであります。多分皆さん方の中にはその講習會でどのやうな教本、教科書を使つて國語普及をやつてをるか、このことが御疑問にならうと思ひます。數年前に學務局の社會教育課が、國語教本を編纂致しました。あれから五六年になりまして途中で改正を致しました。段々さういふ方面に經驗を積みまして、次第に實際方面の要求もあつて、今年の春以來新しい別教本の篇纂に據りまして、未だ國語を知らない者を對象に致しまして、後で申上げますが文字でなく日常の話し言葉、それを教へようといふことを目標にして、極く程度の低いものを作りまし



た。こゝに持つて参りました、「コクゴ」といふ御覽の通りの小さな冊子、これは従來の例を破りまして御覽のやうに全體色刷の挿繪を入れました。約語彙が二百ちよつと出る位、それに基本文型といふものを幾らか考へて付けました。これはどちらかと言へば講習會用といふよりも、その手前の教本といふところを目當にして作りしました。更にその上に「國語の本」といふものを作りしました。それは全く講習會を目當にしたものです。京畿道で私の出る前に「愛國班の國語」、それから、「一日一語集」といふやうな教本を作つたことは先刻申した通りです。

以上で國語普及運動のあらましを申上げた心算であります。今日朝鮮を歩いてみて一番目につく、例へば停車場などの人のたくさん集まる役所といふやうなところにはきつと「内鮮一體は國語より」といふ標語を刷つたビラが、壁といはず、柱といはず貼られてあります。今朝鮮はこのモットーを以て朝野を擧げて國語普及の愛國運動に精出してをります。國語普及の話はこのくらゐに致しまして、次は國語を普及される人か、教へられる對象、つまり國語未解者といふものが、どういふやうな状態にあるかについて申しあげませう。皆さんによつてもこれは關係の深い問題であります。今日不幸にも忠良なる日本帝國臣民でありながら、國語を解しない人がかなり多いのですが、前にも申したやうに、さういふ人達は境遇に恵まれない。學校生活を送ることが出来なかつた人、殊に婦女子は朝鮮傳來の習慣から非常に保守的で、學校に入ることが、男子に比べて乏しい、さういふ人達が、今日國語未解者として残つてをるわけであります。それで國語未解者の中には四十、五十の人もありますが、皆さん方が御指導になつてゐる人達は、血氣盛りと申すか、二十歳から三十前後といふ人達が多いのではないかと想像されます。現に京城の方に於きましては、さうした年齢の人が可成に多いのであります。それらの人達に就て考へてみたいのですが、この人達は、不幸にも學校教育を受ける機會に恵まれなかつた。ですから彼らの智能、頭の働は訓練されてない。教育的に訓練されて

ゐない。それで年齢は多いけれども學校に入つてゐる子供に比べて、國語を覺えるといふことでは頭の働が鈍いといふことは、これは動かせないところだらうと思ひます。智能の働が鈍い、頭の働が鈍い、勿論大人ですから朝鮮語による、母語による日常生活には事を缺かないでせうが、併し彼等が日常生活に操つる朝鮮語も仔細に検討して觀れば決して高いものでなくてやうやく、その生活に間に合ふ程度の言語生活をしてをるので、語彙の數にしても語法の種類から言つても彼等のもつてをる朝鮮語、そのものの量も質も共に上々のものではない。極く狭くて低いものであらうと思はれます。これは言語の質量は文化に應ずるものであるといふことから分りきつたことであります。ですからかういふ人達が新たに國語を學ぶことは、中等學校を終つた者が、高等學校なり、専門學校に入る、或は國民學校を修業した者が中學校なり、實業學校に入つて新たに外國語を學ぶ、英語或は獨乙語、支那語を學ぶものと年齢はやゝ似てゐるのであります。しかし彼らの智能の力を考へ智識の程度を考へる時に、そこには非常なへだたりがあるのであります。例へば中學を卒業した者が高等學校へ進んで獨乙語を新たにやるとする。それにはそれを消化し理解するだけの力を持つて居りますけれども、學校教育をうけない相當の年齢の者は前者迄は比較にならない程力に乏しいのであります。之を要する國語普及の對象者は、學校教育をうけた者に比べて理解力に乏しい頭の働も鈍い、何れの點に於ても非常なマイナスであります。青年に對して、大人に對して新たに國語を教へる者にとりまして、第一に考へなければならぬのは智能の點、つまり頭の働きといふことであります。

次に考へなければならぬのは境遇のことです。或は環境と言つてもいいかもしれせん。これは私よりも皆さんがよく御承知の通りに、山に働いてをる勞務者は大部分晝の間は劇しい勞働にいそしんでゐるものと思ひます。體力を消費することもむろん多いでせうが、家に歸れば家族のこと、生活の上のことで到底國民學校に學んで



居る子供とは比較にならない精神上の負擔を持つてをります。つまり國語を學習する境遇は國民學校の子供に比較して非常にマイナスであります。教はつたことをそのまま受けとるためにはなか／＼の努力が要るだらうと思ひます。或は講習會の席で國語の指導を受けながら、家族のこと、家庭のこと、暮し向きのことで精神を使つて、専心學習に勵むことが困難なものも尠くなくあらうと思ひます。つまり學習の條件はよくない、このことを充分に考へてかからなければならぬのであります。言語學者が面白いことをいつてゐます。五つ六つの子供は一分間と黙つてをらない、始終おしゃべりをして居る、さうして一分間に千から千五百位の言葉をしゃべつてをる。かういふことを言つてゐます。このことは何を物語つてをるでせう。子供は非常に多辯である、口數が多い、おしゃべりであります。まあ私なども時に「さうべちゃ／＼しゃべるんでない。」などといつて子供をたしなめることもありますが、考へて見ればこの多辯は子供の旺盛な精神力のあらはれであります。ですから子供がしよつちゆうものをしゃべつて居るといふことは、その子供の精神力が非常に旺盛に働いてをる、そのはけ口が言葉となつて出て來るのだ、かういふやうに考へられるだらうと思ひます。さうして、この子供の言葉の發達を、或は子供が言葉を變える状態を靜かにみて見ますと、その芽ばへはすでに二つ位の時からぼつ／＼現れます。さうして三つ四つとなるともう普通の言葉は分るし、自分でもしやべれます。それで又或言語學者が、子供の二歳の時期は花に例へると蕾の時である。三歳の時は花の半開きの時期、四歳は満開の時である、かういふやうなことを言つてゐますが、皆さん方の御家庭に子供がをられることと思ひますが、その子供について仔細に觀察すればこの言語學者の言つたことが當つて居ることに氣附くでありませう。子供の時は、このやうは精神力が旺盛で、また記憶力が盛んであります。語學の指導には多分に記憶力に繼る點が多いのですから、この子供の言語發達の自然に鑑みて言葉を教へる即ち、國語を教へるに最もいい時期は母の懷にゐる

時からであります。ですからその年齢が遠ざかれば遠ざかる程、條件は悪くなる、二十歳、三十歳になれば記憶力は次第におとろへてくる、ですから皆さん方の教へていらしやる勞務者はこの點に於きまして、恵まれてゐない。従つて指導者の皆さん方から申せば骨の折れる對象なのであります。このことも青年、成人、つまり大人に對しての指導には充分注意してかゝらなければならぬことと思ひます。

このやうに考へて参りますと不幸にも國語普及の對象となる成人はどの點から言つても國語の學習にはマイナスの點ばかりであります。ここに指導者が骨を折らなければならぬし、また指導の方法にいろいろと工夫をこらさねばならない點があらうと思ひます。拜見致しましたところ、こちらの協和精神に「速かに氣永に、」といふ標語が擧つて居るやうであります。國語の指導にもこの氣永に、といふことを抜きにするならば到底所期の効果を擧げる事は難しいのであります。氣永に急がないで、さうして教へる教材、教へ方といふものに工夫を施すならば臆ては立派な効果を擧げることが出来るだらうと思ひます。どこまでもこの仕事は骨の折れても、而も決してはででない、極めて地味な仕事であります。昨日も申しましたやうに愛の心を以て氣永に、歩一步と進めて行くなれば必ず立派な効果を擧げることが出来るだらうと思ふのであります。

その次に申上げたいのは一體國語指導はどういふことを到達點にして、つまりどの程度の國語を彼等に教へるか、この指導の目標といふものが問題になつてくるのであります。このことは直接そのことに當つていらつしやる皆さん方が充分御承知のことで、寧ろ私が色々教へて戴きたいのであります。

先ず考へられることは、日々の仕事にこと缺かない程度の國語を教へよう、多分かういふことが第一の目當になつてゐるだらうと思ひます。つまり日常の仕事の上で上役の方が言はれる、或は仕事のことであるいろいろ交渉のあるその



言葉を理解し、或は自分で口にすることができればそれでよい。かういふ程度もありますが、皆さん方の御指導の目標はその點に止つてをるかどうか、つまり話し言葉の習得を指導の最後の目標にしてゐるかどうか。新聞や雑誌を読んだり、そのほかいろいろな本を読んだり、また書いたりする、書き言葉のよみかきは指導の外、讀めなくても書けなくともよい。しゃべることができ、聞くことができればそれで充分である。といふ目的もあるし、その上に初歩の読み書きができるやうにといふ目標もあり得るのであります。京城には支那山東出身の支那人が相當をつて、野菜の行商に入り込んでゐます。毎日車を引いて、野菜を賣に來るが、それらは野菜の賣買には不自由のない國語をしゃべつてゐます。然し朝鮮人はいふまでもなく日本人であります。それで朝鮮人に國語を教へるのは、支那人が商賣の上に必要な國語を覺えるのを同じことであつてはならない。私共が、英語なり、獨乙語を勉強するのは、その英語なり獨乙語によつて、イギリスなり、ドイツの國民精神を汲み取らうといふことは無論目的にしてない。吾々が英語なり、獨乙語を勉強するのは、それをしゃべる、或はそれで書いたものを理解するつまり學問の方便にするといふ目的があるのであります。ところが朝鮮人に國語を教へる時には、さういふ方便に止めておいてはならないことは言ふまでもありません。國語には國心が宿つてゐます。吾々が、また朝鮮人が國語を學ぶのは、先づ第一の目的と致しましては、それに依つて自分の生活を國語で運営するといふ方便的なところもありますが、聽ては良き日本人となるためではなく、魂を練るといふことを究極の目的としてゐなければなりません。これは何も毎時間の指導で表面にふりまはすことはいらない。國語を身につけることによつて、自然に達成することのできることであります。しかし教へる人の心構へとしては高く國語の持つ精神的なものを、國語による國民精神の陶冶を究極の目的に掲げて持つてをることが

忘れてはならないことであります。

ここに「話し言葉」と、「書き言葉」といふことを挙げましたが、皆さんの中には實際教育に、殊に朝鮮の教育に、つて經驗をもつてゐる方も一、二あるやうに伺つてをりますが、今日國語教育の本を開いて見ると、この「音聲言語」と、「文字言語」といふ言葉は不斷に出て來ます。或は皆さん方にはご覽になる機會がないかもしれませんが、私共が編纂してをります國民學校の國語の教科書の教師用にはかういふことが色々説明してあります。言葉には口でいつて耳で聞く「聞き言葉」と眼でみて讀んだり、手で書いたりする「書き言葉」の二つがあります。ラヂオは申すまでもなく「聞き言葉」を狙つて、専らこれに依つて居ます。新聞、雜誌つまり活字は「書き言葉」に絶つて居るものであります。この「文字言語」と「音聲言語」の二つは決して對立的な關係に或は併列的關係に在るものではなくて、紙の表裏と申しますか、口にしゃべられる言葉を文字に寫せばそれがやがて文字言語になります。しかも注意しなければならぬことは、例へば三角で説明致しますならば、三角の基底になるものが音聲言語、つまり文字言語は音聲言語を地盤にしその上に發達してゐるものであります。音聲言語と全然關係のない文字言語は考へられない。面白い話があります。もうご存じのこととも思ひますが、里見八犬傳を書きました瀧澤馬琴、あの瀧澤馬琴が里見八犬傳の或章を書いて居る時——その中に出て來る一人の女を生かさうか、殺さうかといふことで馬琴は非常に苦しんだ、女中が丁度お晝になつたのでお膳を作つて馬琴の書齋へ運んで行つて、襖に手をかけて開けようとしたところが、中から突然「えい、面倒くさい、殺してしまへ」と言ふ聲がした。何も事情を知らない女中は驚いて、お膳を廊下に置いたまま一目散に逃げて自分の家に歸へつた、馬琴はそんなこととは知らないで、想を練つてゐた。一くぎりついたら、ひどくお腹がすいてゐることに氣がついた。なぜお晝の御飯を持つて來ないかと家人にきくと、實はこれ／＼だといふこ



とで、それはそれで済んだといふことであります。このやうにお互がものを書く時には、その書かうとすることがらを口の中で、なんべんもなんべんもくりかへして書くのであります。このことは皆さん方の御経験を靜かに顧みれば分るかと存じます。もう一つの例を申しあげませう。百人一首にお馴染の小野小町と、これも百人一首に名が出てをります大伴黒主、この二人がある時宮中の歌會に招かれました。それは上から歌の題が下りまして、それに就て皆が歌を作つて、その歌の優劣を競ふ催しであります。その歌の題が、水邊の草といふ題でありました。歌よみはとかく名譽心が強いと申されてゐます。「われこそは」と、みんなその水邊の草といふ題を持つてめいめいの家に引き下りました。それから明けても暮れても一首の歌を作るのに苦心してゐる、ところが大伴黒主も家に歸つて、しきりに頭をひねるが、どうも旨く行かない、そこでよからぬ考へを起して、夜陰に乗じて小野の小町家に行つて、小町の部屋の外に佇んで、じつと耳をすましてゐた、なぜさうしたかといふことは後で分りますが、案にたがはず小野小町は頻に、「まかなくに何をたねとて」といふ歌の文句を一生懸命繰りかへしてゐる、「まかなくになにをたねとて」の後がでてこない、が遂に「水草の波のまにまにおひしげるらん」といふ下の句ができた。……「あゝこれでよかつた。」と「まかなくになにをたねとて水草の波のまに／＼おひしげるらん」と、いくども／＼くりかへしました。矢立をとり出して、その歌を書きとつた。さうして知らぬ顔して家に歸りました。愈々その日になりました。歌の披露になると、吾こそはと思ふものですから、銘々苦吟を披露に及ぶ。さうして遂に、「まかなくに何をたねとて」といふ小野小町の歌が一等賞に選ばれた。ところが大伴黒主が異議を申し立てた、「しはらくお待ち下さい、只今の小野小町の歌は古歌です。」と、すると選者が、「さうか何か證據があるか。」といふと、黒主は兼て用意した『萬葉集』を出して、「こゝにこの通り『まかなくに……』と書いてあります。これを小野小町が剽竊したのであります。」と申し立てた。

これはその道に入つてをられる方は御承知でせうが謡曲にある、「草子洗小町」といふ曲の筋であります。古歌にあると證據を見せられて、小野小町はしほ／＼と舞臺の橋に懸つた。その時、「若しや黒主が書き入れたのでないか、たしかに私が作つたものが『萬葉集』にあるといふことはどうも分らん」と思ひついて、それは後から書き入れたのかと思ひますからどうか草子を洗つて見て下さい」とたのみました。「さうか」といつて、盥を取り寄せて水にひたすと、「まかなくに……」、といふ歌のところだけが水に散つて了ふ、そこで小野小町は晴天白日の身になつたといふ話であります。この話でもおわりのやうに、私どもがものを書く時には、つまり文字言語といふものの中には、或はその奥には音聲言語、話し言葉があるといふことを、この話で或は具體的に御了解願へたかと思ひます。しかし、文字言語といひ音聲言語と言つても別なものでなく、音聲言語の基礎の上に文字の華と言はれる文學が、美しく花を咲くのであります。根柢の音聲言語が廣く豊かに養はれ、ばその上に花開く文學が良くなる、つまり文字言語が立派に修得される。かういふ關係に相なるだらうかと思ひます。それで今日お手元にさし上げました。「私共の覺悟、」その印刷物をその材料にと思つて用意したのですが、それを御覺になる前にも一言申上げて置きます。逆に文字言語の基礎である音聲言語が不充分であれば、音聲言語の習練、學習が不充分であれば、その不充分の音聲言語を基礎にしてその上に現れる文字言語が極めて不充分である、といふことを御理解願へるかと思つて、この、「私共の覺悟」といふ刷物を用意したのであります。この刷物は今年の春、専檢と言つて居りますが、専門學校入學資格の檢定試験があります。言ひ換へますれば、中學卒業程度の檢定を受ける試験です。その試験の國語の方は、私が擔當して居りますが、「私共の覺悟」といふ作文の題を出したが、これはその答案の一つです。「私どもは、今榮ある、昭和の御代に生れて、支那事變、或は大東亞戰爭等、日々と榮えて行くこの御代、私共女性の負ふて行く道はます／＼大となる」



そこで切れるだらうと思ひますが、一向に文章になつてゐない、「私共は」で起したその文章が、「道は益々大となる」といふへんなところへ結びがはすれてをる。段々讀んで行きますと、自分の言ひたいことが正しく書かれてゐない、洵にしどろもどろな文章であります。かういふ文章を見ると點の付けやうがない、零點を付ければ簡單ですが、さうは行かないので、いろ／＼詳しく見るのですが、後でゆつくり讀んで戴きたいと思ひますが、「私は森田であります」、「私は何々であります」といふ「私は」とかう起した文章は必ず、「何々である」とか、「何々であります」とか結んで行く、「私共は何々しなければならぬ」とか、「私共は何々であります」といふやうな國語の最も初歩的なことを（私共は基本文型と言つて居りますが）さういふ最も初歩の基本となる表現、基本文型をしつかり肚に入れないから、「私共は」と書いた、文章が、途中でぶら／＼になつて「大となる」といふことになつてしまふのであります。これを以てみましても音聲言語が充分、確かに十分練られなければならないことがおわかりだらうと思ひます。吾々の國語教育、國語指導が、國語教育といふ名で呼ばれるものは、音聲言語と同時に、音聲言語を踏まへて文字言語の教育に進んで行かればならないものであります。その前にこの基礎に充分培ふといふことが必要であります。そこで私は話し言葉の修練といふことは、特に皆さん方の國語指導にとつて基礎的な大事な仕事であるといふことを、お考へ置き願ひたいと思ふのであります。

次に「言語教育は耳より」といふことは私共が始終口にする國語教育の合言葉であります。つまり「言語教育は耳からするのが最も自然の途である」と、かういふことを言つたのであります。しばらく具體的な例から話を進めて行きます。私の家に數へ年三つになる男の子がりますが、その子供がこの頃少し口をきくやうになつたのであります。が、昨年の秋から今年の正月頃にかけて、私共兩親をはじめ兄弟三人、それに女中の話は殆ど聞き分けま

た。無論今日では特殊な話しのほかは、大てい聞き分けることが出来ます。つまり「聞き言葉」聞くことは殆ど自由なく出来るやうであります。例へば私が朝、「坊、新聞が来たやうだな、持つてお出で」といふと、玄關に走つて行つて持つてくる。けれども「新聞」も、「玄關」も、「お父さん持つて来ました」といふことも勿論しやべることは出来ませぬ、ところが、「持つておいで」と言ふと、ちあんと玄關へ行つて持つてくる、夕食の後で、「さあ散歩に行かうか」といふと、玄關へ行つて靴を出して待つてゐます。これは、もし皆さんの御家庭でお嬢さんなり、坊ちゃんをれば同様のことを経験されてゐると思ひます。満二歳前後から言葉を聞く力はあらはれて來るのです。ところがしやべる方は、耳よりはるかにおくれで現れるのであります。殊に女の子に比べて男の子は遅いやうであります。私の中の子供は、今のところ極く少數の言葉しか知らない。例へば子供ですから「うま」といふやうなことは早くから覺えたやうです。それから何か氣に入らないことがあると、「いや／＼」と言ひます。また「僕」が案外早くいへる、それから「母アちあん」、「父うちやん」はいへない、ところが、「ねえや」は言へる。「うま」とか、「お菓子」、かういふ極く少數の言葉は口で言へます。その數は無論調べてありませんが、耳で聞き分ける言葉の何百分の一或は何千分の一しか口ではしやべることができません。而も注意しなければならないことは、最初に彼が口にする言葉、覺える言葉は子供の生活に直接的な言葉であるといふことであります。「母親」、それから「ねえや」、彼のすきな「うま」「お菓子」、自分の意志表示をする、「いや」といふやうな生活と密接した言葉を一番早くおぼえるのであります。そこでどういふことを一番先に教へるかといふことを考へなければなりません。一體三つ位の子供はどれ位の言葉を聞き分けるかといふことは調べても恐らく非常な困難な問題であります。口にする言葉を丹念に記帳して行けば分る筈です。三歳や四歳の子供の語彙を調べることは非常に困難であります。然しこのことは非常に大事な仕事



で、幼児の言葉の調査といふことは外國では早くから行はれて居ります。日本でも、久保良英博士などが早くからの調査に手を付けてそれ／＼の数字が出て居りますが、そのことはこゝでは一切抜きにいたします。

ところでここで一應お話し申しあげて置きたいと思ふのは、國民學校にはいる、或は入つて間もない子供がどの程度 of 言葉を知つてゐるか、つまり入學當初に於ける兒童の語彙の調査といふ題目になります。一體國民學校に入學したはじめに、子供はどの程度 of 言葉を知つて居るか、この調査の結果を御覽になるとお分りになるやうに、殆ど耳で聞くことにも、口で喋ることにも生活には事かゝない、非常にたくさん of 言葉を持つて居るのであります。持つてゐるだけでなく、自由に操つてゐるのであります。しかしその内容はどの程度 of のものでありませうか。それについて、朝鮮人が遅れて國語の學習にはいつて一學期を終へた時の調査を後でお話したいと思ひますが、それとの比較で、つまり朝鮮人が國語を習得するには非常に困難が多いといふことを御理解願ふ一つの材料として、しばらくその語彙の調査についてお話ししてみたいと思ひます。

我國で兒童の語彙の調査を最初に致したのは、すつと古いことで、古いと申しましても大正七年澤柳政太郎といふ教育界の大先輩であります。その澤柳さんが校長をしてをられました成城小學校といふ私立の小學校、その成城小學校で大正七年に兒童の語彙の調査をやりました。その結果、當時は小學校ですから小學校入學當初の子供は、成城小學校で調べたところに依りますと、平均四千の言葉を持つてゐます。この數は口にした言葉でなく耳にし得た言葉で、これを私どもは聽解語と言つてをります。聽解語の調査で平均四千の言葉をもつてゐました。その後二、三年遅れまして、どの邊に在るかよく存じませんが、千葉縣の鳴濱小學校が成城小學校の調査に倣つて調査をしてゐます。一番新しい調査は、といひましても大分年が経てゐますが、昭和九年、昭和九年といふと今から八年前になりま

すが、昭和九年に岡山縣の師範學校の附屬小學校で語彙の調査をいたしました。それは立派な一冊の單行本として出て居りますから、或は既にご存じの方もあるかと思ひます。確か、「兒童の語彙と教育」といふ題で出てをつたと思ひます。その結果によりますと、一番多く知つて居つた子供が、六、九〇六語知つてゐました。無論これは聽解語です、聞いて分る語で、口にした言葉ではありません。一番少ないので三三、三八、平均五、二三〇、これだけの語を知つて居つたのであります。この調査は、どなたがやるにしても非常に困難ですが、これだけの語を使つて自分の色々な思想なり、感情を現はす、つまり文型は、子供が學校入學當初だけの文章表現の型を知つて居るかといふ調査は、恐らくこれは不可能に近いのではないかと思ひます。日本にはまだ、さういふ調査は出来て居りません。六九〇六、一番多く知つて居る子供は知つて居る。一番少ないのが三、三三八、平均五、二三〇ところが一番餘計知つて居つた子供が口にする言葉、使用語、これは一人だけの子供に就て調査が出来てゐます。その使用語は聽解語にくらべて非常に少くて、三、一三二で二分の一にも當りません。この數字から觀ましても耳といふものが言語教育に重要な地位を持つて居るといふことが御理解願ひるだらうと思ひます。大體を、聽解語の範圍といたしますと、その中にはいる使用語といふものはそれに比べて非常に少ないのであります。更に口にする言葉、使用語を筆にするといふ調査はまだ出来て居りませんが、それになればもつと少いでせう。

お互が手紙を書くとき、皆さん方はどうか存じませぬが、ものを書く時に言葉は知つてをつても書けない文字が案外に多い。永く東京市の視學をしておられた岡崎常太郎といふ先生がありますが、その先生が六七年前、東京市内と市外の小學校の卒業直前の子供と、その四月に高等小學校に進んだ何千人かに就て、書字力、つまり國民學校では千幾十の字を教へるが、その漢字がどの程度書けるかといふことを調査したら、平均五百字であつたといふことであり



ます。聞く言葉が一番多く、それから口にする言葉、次に書く言葉といふ順序になります。一口に五、二、三〇とか六、九〇六といふ数字を挙げましても一寸想像が出来ないでせうが、一體、お互大人はどの位の言葉を知つて居るか、さういふことから比較すれば大體見當がつくと思ひます。これも調査によつたものではありませんが、多くの學者の推定で、普通の大人のもつて居る語彙数は一萬二千から一萬四千が止りであらうといはれて居ります。さうして普通大人が日常使用する言葉は五千内外になつてゐます。無論職業、智識の程度、教養の程度に依つて千差萬別であらうことは申すまでもありません。普通大人の知つて居る言葉を假に一萬五千としても、小學校に入學した満六歳の子供の言葉は約五千として約三分の一の言葉を知つて居る、使用語から申しても五千に對して三千ですから非常に多い數である。これで言語の發達が子供の時代に非常な勢で伸びる、従つて言葉の教育はこの旺盛な發達の時期をとらへることが最も適當な時期であるといふことは御想像願へるだらうと思ふのであります。さういふ點から致しまして國語普及の、皆さん方から申せば、國語指導の對象である勞務者諸君はこれ又非常なマイナスの條件にある。従つてその指導に於けるお骨折は一通りでないといふことに相成つて来るだらうと思ひます。

ところで今日相當國語は普及して居りますが、例へば三枚目の「二、學童の家庭に於ける國語普及」といふ調べ、これは私が三つの學校にお願いした調査ですが、一寸古くて、昭和十四年と十五年の比較になつてゐます。たつた三つで資料としては洵に不十分ですが備考に書いてあるやうに最初の校洞小學校、今日は校洞國民學校、これは都心部の小學校で相當上流階級と言ひますか、上層階級の者の來て居る學校です。それから二番目は漢洞（ハニドウ）と讀むのですが漢洞小學校は郊外と都心部の中間にある小學校です。最後の鐘岩小學校は郊外の學校です、その學童の家庭に於ける國語普及、つまり家族でどの程度の國語を知つて居るかを調査致しましたがそのパーセンテージはそこに擧げてゐるので

御理解願へるだらうと思ひます。尤もこゝへ註を付けて置きたいのは一昨年當りから非常な勢で國語普及運動が行はれて居りますので、昭和十六年乃至昭和十七年の調査がこゝに假に用意されたと致しましたならば十四年、十五年の調査に比べて相當大きな進歩をして居る。高率の普及をして居るだらうといふことを付け加へて置きます。申すまでもなくまだ〳〵家庭に於きまして國語の常用は勿論のこと國語の普及はまだ心細い狀況であります。さういふ家庭から、さういふ家庭に育つ子供が國民學校にはいつてくるので、尤も例外はありません。内地に居つた、大阪に居つたとか神戸に居つたとかいふやうな家庭の子供は殆ど内地人と變らない國語をもつて來ますが、それを除きまして、大體の子供では、「先生」とか、「お早う」とかいふ日常の極く簡単なことは少しは知つてはいつて來ますが、大部分國語を知らないで入つて來ると御理解願つて誤らないと思ひます。それは段々國語を知つてはいつて來るものが殖えてくることは勿論であります。二枚目に「兒童語彙の調査」といふ題がありまして、これは十五年の九月丁度今頃、京城女子師範學校附屬小學校指導の鈴木君が調査されたのです。十五年四月同校一學年に入學した女子、女子師範ですから女子十六名に就て調査しました。調査の事項、或はどういふことを調べ擧げたかといふ調査の項目、これは抜きまして、その結果最も多く聽解語をもつて居るものゝ數がそこに擧げてありますが、多いので二、〇五二、さうして最も尠ないものがこれは又大變尠くて三七〇、平均一、一八五といふやうな數字であります。これを前者と比較して見てもまるで問題にならないやうな數字ですが、もう一つこの兒童は一學期間、昨日申上げたやうに學校では國語一本の指導を受けた生徒であります。つまり一學期間に一生懸命に國語を勉強して尙ほ且つ二學期の初めに於て子供の持つて居る國語力、聽解語の力はこの程度であります。この數字は何を物語るものでありませうか。申すまでもなく母語、母の懷ろで覺えた言葉、母語を持つものに對する國語の指導、國語教育が如何に骨の折れるものであるかといふ



ことが、この數字に依つて御理解願へるだらうと思ひます。段々申上げますと、結局皆さん方が御骨折になつて居ります御仕事が非常に仕事の本質の上に困難な仕事であるといふことが間接ではありますけれども御理解願へるのじやないかと思ふのであります。

次に來る問題はこの人達に、つまり皆さん方が御指導になつて居る、朝鮮で申せば國語普及の對象になつてをる國語未解者にどういふ國語を教へるかといふかういふことが第一に問題になつてくるのであります。それから次には如何なる方法で教へるかといふことが問題になつて來ます。それにつきましては可成詳しく私の出来るだけ詳しいお話を申上げやうと思つていろ／＼用意して來て居るのであります。話が途中でとぎれる關係もありますので、それは次に譲りませう。

先に「兒童語彙の調査」で、吾々大人は一萬二千から一萬四五千の言葉を持つて居るといふ話を申上げましたが、國語の辭書には一體どの位の言葉が盛られて居るか、つまり吾々の國語には一體どれ位の數があるか、これはもう御承知の方が少くなからうかと思ひますが、御参考迄に申上げてみたいと思ひます。國語の辭書にも段々ありますが、最初に申上げますのは多分お馴染みのものであらうと思ひますが、『言海』といふ辭書であります。これは明治時代の代表的辭書であります。今日は改版になりました。「大言海」といふ立派な辭書になつて居ります。明治時代を代表するこの『言海』を見ますと三萬九千十三の言葉が載せられて居ります。それから『大言海』はまだ私數を讀んでゐないのですが大體十四萬位だらうと記憶して居ります。その次に大正時代の代表的辭書、上田萬年博士と松井簡治博士が共同でお作りになつた『大日本國語辭典』には、ずつと多くて二十萬といふ言葉が挙げられて居ります。それから昭和時代に出來る辭書、それには幾つかあるのですが、『辭苑』それは京都大學教授の新村出といふ先生がお作りに

なつたのですが、この辭苑には約十六萬語が採收されあてて居る。それから平凡社から先年『大辭典』といふものが出來ました。これは非常に老大なものでした。それは採り擧げてある語が七十萬、無論この中には外來語例へばマツチとかランプとかガラスとかいふやうな外國語が日本語になつた。さういふものも相當に採り擧げられて居ります。まあ十六萬乃至二十萬で大體國語の語彙の數が見當がつくのではないかと思ひます。念の爲に申上げますが、『大日本國語辭典』もう一つは改版致しました『大言海』は今日我が國に於ける國語の辭書の代表のものであらうと思ひます。この外巻間に廣く使はれてをる大辭林などもこゝに擧げていゝかも知れませぬが、これは苦い經驗を持つて居るもので申上げます。「悉く書を信ずれば書無きに如かず」といふことを支那の人が言つて居るが、字引にあるといふことが動かすべからざることのやうに考へておられる。さういふ考へ方がかなりある。ところが、全部が全部絶對信頼していゝかどうか、相當學問的良心のある學者に依つて作られたもの、これは大丈夫安心して可なりであるが、さうでないものは辭書と雖も誤なきにしもあらずであります。私は國語の本を編纂して居りますが、これは後の話でございますが、ところに依つていろ／＼言葉が違つてくる、例へば東京では、標準語は、洗濯セウダクですが地方によるとセンチクとは言はなくセンチクとにござる、或は芥溜カイリウがゴミダメとなる、國語の本にゴミタメとあるがこれは標準語だらうかといふので辭書に當る、さうするとその人には都合よく、それにゴミタメでなくゴミダメとあるさうするとえたりかしこしとゴミタメでなく、ゴミダメであるとかういふやうに教へる先生が大勢の教師の中にはあります。現に私が面倒を見た一人の先生が、夏の休に私のところ來て、「大變ですよ、讀本に間違ひのあることが發見されました。」と、讀本に間違ひがあつては僕も腹を切らなければならぬが、今言つたゴミダメの問題であります。その學校で研究授業があつていろ／＼調べて見た、まあ二冊調べて見たがゴミダメであつて讀本の肩を持つゴミタメといふのがなかつ



た。それで不幸にも讀本は間違ひといふことで、私は平素親しくして居るので、森田先生にとつては大變だといふので注進に來た。然し「あなたの學校で調べた辭書はどういふ辭書か」と聞いて見ると、さあ私も名前は覚えて居らないが、赤い表紙だとか青い表紙だとか言つて要領得ない。私の部屋にある『大日本國語辭典』、『大言海』、『廣辭林』等代表的辭書を持つて來て調べたところが、私にとつて幸ひなるかなゴミタメとある辭書は一つもなく全部ゴミタメでありました。「君の學校で調べたら皆んなゴミタメである、こゝで調べたらゴミタメである、君は字引に當つたといふが、その字引が間違ひだ、以後注意するやうに校長に言つて置き給へ。」といふので笑ひ話で済みましたが、こと苟も教科書をとりに上げ、こと苟も吾々の讀本の眞偽を確かめるには、その國最高の權威ある辭書に依ることをお互ひ考へて置かなければならぬと思ひます。これは私共さういふ問題で悩まされたので皆さん方にもそんな間違ひはなかつたと思ひますが、教科書などはさう簡単に片付けられるものでなく、ゴミタメかゴミタメかその吟味までして居るのだからそれを判決する證據は餘程確かな證據がためをしないで、輕々しく教科書が間違つて居るといふことは國民教育の爲、憤んで貰ひたい。これは皆さん方に對しては全く國民學校の先生に始終いふのでありますが、辭書にもいろ／＼ありますが、出来るならば安物の辭書に頼ることなく金は張りますが日本最高の辭書といふものを吾々の大事な國語を扱ふといふ點から言つて願はくばさういふことをお考へ置き願ひたいと思ひます。これはほんの蛇足のやうですがまあ御承知置き下さつて無駄でないかと思ふのでちよつと付け加へて置きます。

皆さん方の指導の對象である人達が、頭の働きが正規の學校教育を受けたものと比べまして、鈍いといふこと、それから學習の環境といひますか、條件が餘り恵まれてゐないといふこと、もう一つ語學の習得に大事な記憶力が學童に比べて活潑でないといふやうなことをお話申上げて、それ故に如何なるものを與へるかといふ教材の選擇の上に、

それから方法の上に特別の工夫が要る、かういふやうなことを幾らか例を擧げてお話し致しました。

次に人の問題を離れて、言葉の方面に目を向けてお話ししてみたいと思ひます。題目は國語の學習に關する朝鮮人の困難といふやうなことに纏まるかと思ひます。御承知のやうに朝鮮人は國語とは違つた朝鮮語の中に生まれて、さうして朝鮮語の中に育ち、又朝鮮語で生活して居ます。まあ大體かういへるだらうと思ふのであります。つまり朝鮮人は朝鮮語といふ母の言葉を持つて居ます。これを一口に申せば私共内地人とは言葉に異にして居る。専門的なことは申上げる時間もありませぬが、朝鮮語と國語の間の差異、かういふやうなことを朝鮮人に國語を教へるには是非承知して置かなければならないことと思ふのであります。

吾々の國語の基本の音は申すまでもなく普通に五十音といはれてゐるものであります。アイウエオ、カキクケコで實は五十に一二足りないのですが、國語の基礎音の数は五十である。ところが朝鮮語はそれよりも音の数が遙かに多い。その五十音の中で、「アイウエオ」、この五ツの音を御承知のやうに母音と呼びます。これは五十音の基になつて居る音である。ローマ字で書けば a, i, u, e, o ですが、カ行から以下サ行、タ行、ナ行等々はそれ／＼ k, s, t, n, といふやうな子音と前の五ツの母音が組合つて五十音が出來て居ます。これはまあ簡單なものです。これと朝鮮語を比べてみると、朝鮮語も母音と子音の組合から出來て居るのですが、國語の各々は、例へば「カ」は子音の K と母音のと組合つた一つで各々／＼に音は一つしかないが、朝鮮語を調べてみますと單純にカ行ならカ行は、K の子音と母音が組合つて五ツの音が出來るといふやうな出來方でなくて、國語と朝鮮語とで、一厘一毛の相違もなく發音の上で一致して、二ツの間にずれがないのはア、オ、ソ、モ、ユ、ヨ、ロ、テ、この八つで、その外は朝鮮語の方が多いのです。多いといふだけでは少し説明が足りませぬが、例へばア行のイに對して朝鮮語のこれに近く



發音されるものが二ツある。さういふやうに致しまして、少いもので二ツ。堀先生の講義で御承知かと思ひますが、朝鮮語の發音でカ行などは大變難しい部類なのですが、カに相當する朝鮮語の音は六ツもある。それからキに對しても六つ、クも六つ、ケなどは九つもある。さういふやうに國語の五十音と、それに相應する朝鮮語とを比較してみると、今申したやうにケの如きは朝鮮語には九つもあるのである。多いのになると九つ、少いで二つ。ですから朝鮮語の基礎音は國語の何倍かになつて居ます。そこで例へば「ケダモノ」と、かう發音をして、國語の五十音でケダモノと教へる、ところが今申し上げたやうに單純なケでなく、ケに近いものが九ツもある、つまり言葉を換へていへば朝鮮語では九通りケの發音があるといふことになる、ですから私共が「ケダモノ」と教へる時にそのまゝ五十音の國語のケに朝鮮人が耳で受取つて居るかといふことになる、非常に問題になる。やはり自分が母の懷から得た何處かにある自分の音に翻譯して受取つて居るだらう。さうすると發音する時も正しく「ケダモノ」といふ國語の五十音の「ケ」が正しく出悪いといふことになる。このことは國語を教へる場合に最も困難なので、國語の五十音と、朝鮮語の間にずれがありますから、例へば「サトウ」と教へて、それが國語の「サ」よりもつとずれて「シヤトウ」といふ音になつたり、いろいろして、正しい國語の發音を會得させるには非常に困難である。自分が已にあるものをもつて居つて、その上に受取る時には自分の都合のいゝやうに受取る、先入觀といふことは當らないかも知れないが、さういふやうな言葉の相違になつて居る。實際の例で少し申し上げるならば、朝鮮の人達は「ツ」の音が非常に面白い。嚴密にいへば國語の「ツ」に相當する朝鮮語はないといへます。無論これに近いものはあります。京城から南の方では「チュ」で現はしてもはつきり現はれないが、「ツ」といふところを「チュ」といふやうに出る。ですから「ツキ」といふ時に正しく「ツキ」といへない「チュキ」といふやうに發音する。これは皆さんもお氣付きと思ひま

す。普通は「ツ」を「ス」に誤り發音するといふのが著しい現象である。無論朝鮮人は「ス」と發音して居るのでないが、朝鮮人がこの音を發音するのを聞くと吾々には「ス」と聞えるといふ方がいゝかも知れません。ですから「ツキ」といつて居るのだらうと思ふが、吾々の耳には「スキ」と聞える。だからさういふ發音の誤から滑稽といふか、笑はれないやうなことがあります。「釣に行かないか」といふのを「スリに行かないか」といふやうなことがある。「前の續き」を「前のスズキ」といふ。「詰らない」といふのを「スマらない」といふやうに吾々には聞える。だから「コスモス」といふのを逆に「コツモツ」といふやうに聞える。「一ツ、二ツ」に骨の折れる朝鮮人が少くない。「一ス、二ス」といふやうに聞える、さういふやうに「ツ」の音が嚴密な國語の「ツ」の音に相當するものがないので、地方によつても違ふ、南では「チュ」といふやうに、普通には「ス」といふやうに吾々には聞える。かういふやうに朝鮮語の音と國語の音はかなり違つてゐるのであります。

もう一つは朝鮮人は「ニ」を「イ」に發音する傾向があります。これもさう發音するといふよりも、朝鮮人が發音する「ニ」が私共内地人には「イ」に聞える。「ニッポン」とながいへない。いつて居るのかも知れないが、正しく「ニッポン」ぢやないのですから、吾々には「イッポン」と聞える。「ニワ」が「イワ」といつて居るやうに聞える。それから「レ」が「ネ」に近く聞える。例へば「カクレンボ」を「カクネンボ」といふやうに吾々には聞える。まだ清音は注意をすれば或る程度まで正しく出来るのですが、濁音になりますと、これは皆さんも十分御承知のことと思ひますが、朝鮮人には苦手である。それはもとゞ、語頭に濁音が來るといふことが朝鮮語には殆んどないといつていゝのです。これは始終私共が經驗する例ですが「學校」といふことを教へるのに骨が折れる。語頭に來る濁音が朝鮮語にないので「ガッコウ」が「カッコウ」「ドウロ」が「トウロ」、「ガマン」が「カマン」などになつて、



時にはとんでもないことになる。これは私共がよく経験して、作りごとでないのですが、「あなたのお父さんは何處に勤めていらつしやるか」と聞くと、「キンコ（金庫）に勤めて居る」といふ、豈はからんやそれは「ギンコー（銀行）に勤めて居る」のである。「電気」と「天気」もよく間違ひます。私共の家庭で朝鮮人の女中を使つて居りますが、氣をつけて居りますと言葉の違いからいろ／＼手違ひがある。これは事實あつた話ですが、子供の病氣の時に「牛乳」を持つて来いといふと「吸入器」を持つて来るといふことが嘗て何回かありました。かういふやうに語頭の濁音といふことが大變困難であります。それは朝鮮語に語頭に來る濁音の言葉が大體ないといふところから來て居ます。面白い話があります。嘗て或る朝鮮人の中學校で卒業後の志望を聞いたところが、或る一人の生徒が「トウゾク（盜賊）になりたい」といふので、先生むつとして、聲を勵まして、「何をふざけて居るか」とやると、「先生冗談でない、私は中學を出たらトウゾクになりたい」といふ。それで段々詮議してみると、道の役人「道屬（ドウゾク）になりたい」といふのを「トウゾク」になりたいといつてしまつた。これは作り話でなく、事實あつた話であります。兎も角も朝鮮の人達は殊に語頭に來る濁音の發音に苦心してゐます。

それから長音を短かく發音することが朝鮮人には著しい。例へば「バンゴウ（番號）」といふのを「バンゴ」といふ。或は「朝鮮」を「チヨセン」といふやうにいふ。このやうに長音を短く發音する傾向もあるが、またその逆もある。寧ろその逆が多いやうであります。「書物」を「シヨモツ」といふ。「最初に」といふのを「サイシヨニ」とひつばる。それから「最後」は「サイゴ」を「セイト」といふのを「セイト」はといふやうなことは屢々耳にします。その一つの例として、事實あつたのですが、私のところに居る、高等師範を出たものですが、その君は大きくなつて國語を習つたので、大勢居る朝鮮人の中で一番國語が拙い。「君は東京へ行つて勉強したといふが、

國語はあまり上手でないではないか」と同僚からいはれてゐるのですが、が、ある日のこと、私が出勤すると「森田さん」と呼びかけるから、「何だね」といふと、「此度京畿道にホトト聯盟が出来たさうですな」といふ。それで「朝からそんな冗談をいふなよ」とたしなめると、「いや新聞に書いてある」といふのです。よく聞いてみると「ホトト聯盟」といふのは「保導聯盟」の間違ひであることがわかりました。學生の校外における風紀を取締る團體がある。その「ホドウ」を、澄むところを濁り、短かくするところを長くしたり、ごちゃ／＼になつてこの傑作が出来たのであります。かういふやうなことが時にはあるのであります。

それで私共が國語を教へるには、國語の五十音と朝鮮語との差異を知つて居ることは大事ですが、一體私共が「これはハナ」「これはツクエ」「これはデントウ」と教へてゐることが、たとへば「ツクエ」の「ツ」が國語の「ツ」として正しく受取られて居るか、どうかといふことを調べることは國語指導上大いに注意すべきことであります。重ねていへば、國語の「カ」音は朝鮮人にはどう誤られ勝ちであるかといふやうなことを承知して居ると指導が徹底しまして正しい指導が出来ます。かういふやうなことを考へまして、私は常に國民學校の先生に極力さういふことの調査を勤めて居るのであります。プリントの四枚目にその一つの調査がつてゐます。この聽音調査、これは一學期の終に致しました調査でありますが、そこに五十音の清音、濁音、半濁音を並べてあります。そこに數字が擧つてゐますが、アは四、イは二、ウは五十七といふやうに擧つて居りますが、誤り聞きとつた數です。先生が「ツ／＼發音して書かせる、アと發音したのをアと書かないで違つたものに書いたのが三百四十二人の中二人あつたといふことです。まあアやイは無難です。イなどは國語のイに朝鮮語のイは合致して居りますから間違ひは少い。ところがカ行、サ行などになりますと、殊にスの音などは三百四十二人の中、二百一人は間違つて聽取つて居ります。この表は不十分で、



どういふやうに違つたかをあげると、もつと詳しいものになるので、さうあるべきなのですが、便宜五十音の聴取りが正しく出来るか出来ないかといふことの資料といふ程度に止めまして、三百四十二人の中二百一人といふと六割です。六割といふものがスといふ音が十分正しく聴取れない。その次には夕行のチの音が約五割、これは二年生ですが百八十七人は誤り聴取つて居ます。ツもさうであります。ツは百二十七人。ツとスを比べてみますと私がさつき申したことが強ち間違ひでないといふことがお分りだらうと思ひます。フなども判に易しいやうに思はれるけれども、百四十一人間違つて居ます。イ或はナ、セなどは殆ど聴誤りといふものがなくて、國語のイなりセ、それからナといふやうな音は大體そのまゝ素直に聴取られて居りますが、その外の音は、殊にスとかツ、チといふやうな音はそこに擧げてありますやうにかなり大きく間違ひて聴取られて居ます。以上は清音ですが、濁音になりますと、もつとひどい。ガギグゲゴは御覽のやうに、ガが八十一、ギが百三十四、グが百四、ゲが百九、ゴが百七といふやうにどれも百臺違つて居ます。バ行に行きまして、バは比較的よくて三十九、ビが九十二、ブが百六十三、ベが六十七、ボが百四といふやうに清音に比べまして濁音の聴誤りが非常に多い。つまり朝鮮人には國語の濁音は相當に聴取り悪い、誤られ易いといふことにならうかと思ひます。その次の頁を御覽戴くと、濁音がどう誤られるかといふやうな内容の表がありますが、ガがカに誤られたものが六十八人、それからナに誤つたものもある。ギがキに誤られたのが五十八人です。それからゲがケに聴取られたのが九十人、つまり濁音が清音に聴取られるといふことがこゝにはつきり出て居ると思ひます。この調査はもう一つありまして、七枚目に「バ行音聴取調査」といふのがありますが、同じ濁音の中でもバ行音が朝鮮人には特に骨が折れるやうです。その調査は少し古いのですが、これは小學校の教育、當時は普通學校と申しましたが、それと中等學校の生徒について調べた数が大多數で、中等學校に行つても尙ほ且つバ行音が正しく聴き取れない。この二ツの表で朝鮮人に濁音が正しく聴取り悪いといふことは何處かまでいへるだらうと思ふのであります。

皆さん方の耳にも届くことと思ふが、「アバート」といふところを正しく「アバート」といへないで「アバート」といふ。それから「カルビス」の「ビ」を「ピ」に誤る。半濁音を濁音に誤るのが大體の傾向のやうです。朝鮮料理に牛の肋を切つて焼いたものがある。それはカルビといひますが、「ピ」と音は樂であるが、「ビ」はいへない。「カルビス」といつて居るのでせうが、私共の耳には「カルビス」と聞える。その逆もあります。よく京城の街の場末に近いところを歩くと、「ビール」と書くところを「ピール」としてある。又「バナナ」を「パナナ」といふ人は朝鮮人には少くない。これらは濁音、半濁音が朝鮮人に困難である證據で、これは朝鮮語から來る誤であります。かういふやうに單純な單音でも、殊に濁音、半濁音になると朝鮮人に非常に困難であります。このことは特に皆さん方の御指導の對象は先づ日常の話言葉といふものの修練習得が問題であらうと思ふ。つまり耳から口への指導といふことが先づ最初の問題であらうと思ひますが、その時にこの發音の指導といふこと、正しい發音といふことがなか／＼骨が折れるが、それは朝鮮語と國語の音のずれから來て居るといふことを十分お含みの上教壇に立たれたらよからうかと思ひます。そのことは朝鮮人自身がいつて居ます。その一つの證據に、これも調査が大いに古いのですが、六枚目の「國語の學習にあつて何が困難であるか」といふのがある。それは福岡縣の方がこゝに大勢いらつしやるやに承つてゐますが、京城から福岡の大學に御かはりになつた高木先生が朝鮮にいらつしやる時、視學委員として朝鮮内の中等學校をお廻りになつた。その時に「國語の學習に何が困難であるか」といふ課題を出して自由に九百五十八人の生徒に答へさせた。それを整理したものであります。第一表の第三番に「發音と訓法」とありますが、その數もかなり



高くなつて居る。延三千六十二人について九百七十四人がそれで、訓法もやはり文字の誤ですから發音に關係して來るだらうと思ふ。さういふやうな調査の結果によつて、このことは私共内地人が推量して居るだけでなくて、朝鮮人自身が國語の發音は難しいといふことを正直にいつて居るので、まあこのことは動かさないことであらうと思ふのであります。その序に表を見て戴くと、二番目に「語法と文法」といふのがあります。國語を習ふのに語法と文法が面倒だといふ答を出して居るものも相當の數に上る。朝鮮人にとりまして國語の發音が非常に難しいと共に語法もかなり困難なものである。これは中等學校の生徒の調査であります。もつと小さな國民學校なり、更に教育を受けないものにとつて國語の語法が難しいだらうといふことは調査を待たなくても類推することが出来るだらうと思ひます。

一番私共の耳につくのは、朝鮮人は助詞……テニヲハの使ひ方が不十分であることであります。例へば「汽車を乗る」といふことを平氣でいひます。「汽車に乘る」といふべきところを「汽車を乗る」と、「に」を「を」に誤るといふことは朝鮮人の子供の書いたものを讀むと澤山出て來ます。それからかういふこともいひます。「今朝の新聞を破れました」、「が」とやるところを「を」とする。それから「黒板の繪が綺麗です」といふところを「黒板に繪が綺麗です」と、かういふやうにいふ。テニヲハが彼等にとつては難しいのであります。「汽車を乗る」と「を」を使ふのは朝鮮語の語法から來る誤です。朝鮮語の語法を直譯すると「汽車を乗る」といふやうになつて來ます。前にも申しましたやうに、國語を教へるものが朝鮮語を身につけるといふことはその指導を徹底させる上に必要であります。

今のは助詞を誤る例ですが、助詞を省くこともかなり眼につくことです。例へば「机の上に時計があります」かういふべきところを「机の上に時計あります」と、「が」を省く。「明日は遠足行きます」と「に」を省く。「先生明日は遠足行きますか」と聞きに來る。「これは私の物です」といふところを「私物です」といふ。文字にすれば「私物」

ですといふのと同様ですが、言葉でいへば違つてきます。「妹はお菓子食べてゐます」と「妹はお菓子を食べてゐます」といふところを「を」を抜かしていふ。テニヲハを誤つて使つたり、省いたりするといふことがかなり著しいことゝやうであります。

その次に、これも随分可笑しく響いてゐるだらうと思ひますが、「今日は大層暑いの日です」「大層面白いの話です」といふやうに、動詞や形容詞の連體形に「の」をつけることがあります。「大層悲しいの日です」、「あの人達が相談して居るのは魚を獲るの話です」と、「魚を獲る」といふ連用形に「の」をつける。かういふやうに動詞及び形容詞の連體形、體言に續くところに一寸のを入れる、かういふことが朝鮮人の語法には大變に目につくのであります。

それから三番目は動詞の誤用。これは朝鮮語の語彙が少いといふことから來る譯です。例へば「山本君から鉛筆を借りました」といふのを「山本君から鉛筆を貸しました」といふ。「貸しました」と「借りました」は語彙の上で朝鮮語には區別がない、只語尾の變化による。或は又「本を返しに來ました」といふところを「本をやりに來ました」といふ。かういふやうな誤は朝鮮人に非常に多い。これは朝鮮語の直譯から來てゐます。詮り「貸す」とか「借りる」といふ區別は朝鮮語の言葉の上にはない。朝鮮語が語彙において貧弱だといふことから來る誤だらうと思ひます。同じ例で、國語では御飯は「タベル」、茶は「ノム」、煙草は「スウ」、かういふやうに同じ口に入れる仕事でも「タベル、ノム、スウ」と區別していひますが、朝鮮語では一樣に「お茶をタベル」、「煙草をタベル」といふ。無論それは教育の程度にもよりますが、特に教育の程度の低いものはかういふ誤をします。さういふ例はほかにもあります。例へば「時計が死んでゐる」といふやうなことをいひます。「時計が止つてゐる」といふべきところを「時計が死んで居る」



といふ。又釘などが「眞赤に錆びてゐる」といふのを、「錆びる」といふ言葉がないので、これは「釘が病氣して居る」といふ。これは九州の方が居れば少し差障りがあるかも知れないが、私共は洋服のズボンは「着る」とはいはな、ズボンをはく」といふ、ところが朝鮮の人は「ズボンを着る」といふ。九州の何處かにさういふやうな言葉の使ひ方があるやうに聞いて居ます。又「スケートを滑りに行かう」といふのを「スケートを乗りに行かう」かういふ誤もあります。これらの例は、國語はかなり細かいところまでそれ／＼の働を現はす言葉であるが、朝鮮語はそれに乏しい、言葉の数が少い。何時か朝鮮で防空訓練をやつた時、警戒管制から空襲警報に移るところで、これは田舎といつても町外れの話ですが、何處かの家に火が點いて居つたところが、防護團の人が大聲で「蠟燭を殺せ、蠟燭を殺せ」といつて叫喚いた。それで防護團の人達が、人殺があるやうだといつて澤山出ていつたが、それは蠟燭を消せ」といふのを「殺せ」といつたので、その「蠟燭」が遠くでよく聞えないで、「殺せ／＼」だけが聞えたから、人殺しかと思つたといふので、これは一寸眉唾ものではありますが、朝鮮語は日本語とくらべて語彙が少いといふ例にはならうと思ひます。

段々語法の上で朝鮮語と國語の差異からいろ／＼誤が多い。従つて朝鮮人にとつて國語の語法はなか／＼難しいといふことなのですが、私共の言葉には自動、他動の別があります。「御飯を食べる」「風が吹く」といふやうな場合、「食べる」と「吹く」といふやうな言葉は、一は自動を現はし、一は他動を現はすのですが、これが朝鮮人にはなか／＼苦手らしい。例へば、「一寸のて下さ」といふのを「一寸のけて下さ」といふ。「のて下さ」は自動詞であるが、「のけて下さ」といふと他動詞になります。それから「弟をどうしたね」といふやうな問に對して、「弟を先に歸りました」と、他動では「歸りました」といふところを「歸りました」といふ。「歸る」は自動詞で、

「弟は」になると「歸りました」で歸りましたといはない。それから「着物を引つ張ると裂けます」といふところを、「着物を引つ張ると裂きます」といふ。「裂く」といふのは「ハンカチを裂く」といふやうに他動詞である。その他動詞の動詞を「着物を引つ張ると裂きます」と使ふ。自動にすべきところを他動のいひ方をする。かういふ誤が相當に多い。「相撲をとつて原田君を倒しました」と、他動詞でいふべきところを、「原田君を倒れました」と、「相撲をとつて何々君を」ならば、その次に來る動詞は「倒しました」と、他動でなければならぬ、それを「倒れました」と誤る。

それから難しいのが「アリマス」と「キマス」の區別、これがなか／＼難しい。「魚が澤山ゐます」、かういふべきところを「魚が澤山あります」といふ。池をのぞいて居つて、「鯉が澤山ゐます」といふべきところを「鯉が澤山あります」といふ。木の上に雀が居るのを見て、「雀があります」とかういふやうに「ゐます」といふべきところを「あります」と誤る。それで國語の教本、初歩の國語の指導に皆さん方がお使ひになつて居ります教本に多分出て居ると思ひますが、相當皆さん方にはこんなことを思はれる程ゐます。「あります」が、重要に國語の教本の中では取扱はれて居ます。無論國民學校の教科書の中にも「カラスガキマス」「ウシガキマス」「スズメガキマス」といふやうな、「何々がゐます」といふ例が澤山擧げられてゐます。それからその次に「コップガアリマス」「トケイガアリマス」「ノートガアリマス」といふやうなふうに、「あります、ゐます」は朝鮮人に始めて國語を教へる時にはかなり叩き込んで置かなければならぬ種類のいひ現し方です。これは説明までもないのですが、「あります」は物の存在、詮り無生物、命のないものことはいふ時です。時計とかノート、机とか腰掛、洋服といふやうなものは「あります」で、「机があります」、「洋服があります」それから動物は「ゐます」……「鳥がゐます」「雀がゐます」といふやうに「



應吾は承知して居る。ところがこれは私共にも問題になる言葉で、「壁に時計が掛けてあります」といふか「掛けてあります」といふか、かういふやうになると……「掛つてゐます」といふ場合もあるし、「掛つてあります」といふ場合もあつて、これは間違ひではない。だからさういふ點になるとまことに「ゐます、あります」の用法は難しくなるが、その前の最も簡単な「何々がゐます」「何々があります」といふ單純ないひ現し方でも朝鮮の人はそれを混同致しまして、「鳥があります」とか「こつぶがゐます」とか——とはまあいいないが——「あります」といふところを「ゐます」といつたりして間違ふ。かういふやうに項目を挙げますと、朝鮮語と國語との差異から、語法の上に相當注意をしないとあぶない。従つて教へる時には十分それを區別して教へてゆかなければならないことが國語の指導に當つて少くないのであります。

最後に敬語の問題、敬語の問題は豈朝鮮人のみならず、私共内地人にとつてもなか／＼難しい問題であります。然し御承知でもありませんが、世界に國は多いが、何處の國の言葉にもまして我國の國語にはこの敬語が發達してゐます。これは私共の國柄が然らしめるもので、こゝに私は尊い國柄といふものを言葉の上から窺ふことが出来ると思ふのです。申すまでもなく、一口に敬語と申しましたが段階がありまして、一つは先方を敬つていふ種類の敬語、「何方へいらつしやいますか」といふやうな敬語は先方を敬つていつてゐる。「お宅のお坊つちやまは」といふやうなものも先方を敬つていつてゐる。さういふ種類の敬語がある。その次には自分を卑下する……といふと少し言葉が拙いから、假名で「へりくだる」と書いて置ませう。自分を相手に對して低めていふ、さういふ敬語があります。例へば「私が行つて参ります」の「参ります」といふやうな言葉、この言葉は相手に對して自分をへりくだつた現し方である。まだあります、「さつき私が申しました」の「申す」といふやうな言葉は非常にこれは誤られて使はれ

る言葉ですが、自分をへりくだるので、「参ります」とか「申す」或は「伺ふ」……「いや手前の方から伺ひます」これは決して先方を敬ふ種類の敬語でなくて、先方に對して自分をへりくだる種類の敬語になります。これが非常に難しい。この使ひ方が非常に難しい。これは氣をつけてお聞きになると分る。「さつき先生が申しました何々はどういふことでせうか」といふやうなことを國民學校の生徒などがよく先生に聞く。「さつき先生が仰しやいました」といへばそれは正しい敬語の使ひ方ですが、「先生が申しました」といふ、それは誤つた言葉の使ひ方であります。これは非常に多い。朝鮮の人は「私が上げて上げませう」といふことをよくいふ。下の人が上の人に「何々して上げませう」といふのはいけない。「私が致しませう」といふのが正しい、自分をへりくだる敬語であります。三番目は丁寧語といふやうに普通いはれて居るので、例へば「菓子」といふところを「お菓子」といふ、「さうだ」といふところを「さうであります」とか「さうでございます」とかいふのは單なる丁寧語であります。無論相手に對して敬ふことから出て來る言葉ではありません、がこの丁寧語と合はせて、敬語には三通りあります。これをその場／＼に使ひ分けるといふことはなか／＼難しい。部屋で電話をかけるのをじつと聞いてゐると、随分この敬語の使ひ方を誤つて居るものが多い。朝鮮人だけでなく、内地人でも、殊にこの二番目の使ひ方になると折々變ながあります。これは非常に難しいからであります。しかし、敬語は難しいから使はないといふ譯にいきません。言葉は非常に難しいもので、相手と時によつて、いろ／＼ないひ現し方をとります。朝鮮人の話を聞いてゐると、その使ひ分けが一番面倒であるやうです。これは吾々でも難しい。例へば「宜しい」といふべきところを「宜しう御座います」といはなければならぬ場合がある。相手によつては「宜しい」で済むところを「宜しうございます」といはなければ敬意を失ふことがあります。「結構です」「結構でございます」といふやうに「結構です」も無論丁寧語です。その「結構です」の上



に更に「結構でございます」といふ、これは非常に難しい。ところが、殊に婦人の社會に多いのですが、今日は社會の一部分では敬語が濫用されて、所謂「遊ばせ言葉」といふ言葉が、一種の流行のやうに使はれて、直ぐ「御免遊ばせ」とか「何々遊ばせ」といふことを口にする。それはその人の身分などによつて「御免遊ばせ」といつてもちつともおかしくない場合もあるが、「御免遊ばせ」などといふと何だか人を馬鹿にして居るやうに聞える場合があります。それから「おみ足」……「大變おきれいなおみ足でございますこと」などといふと、漢字を當てると「御御足」である。それから「おみおつけ」も同じです。「おつけ」で十分、そこへ「お」をつけて「み」をつける。かういふのは「ご丁寧」といふ、但しその「ご」は「御」でなくて誤りであります。言葉がぞんざいになつて居るところがあるかと思ふと、或る社會では言葉を玩具にして居るといひたいくらの敬語を濫用して居るものもあります。

それは暫く置いて、敬語がだん／＼疎かになつてゐるといふことは、これは國民として十分考へなければならぬことで、さつき堀先生は朝鮮に居る内地人は言葉が大變よろしいとおつしやいましたが、私は、二人の子供を國民學校にあづけて居りますが、一番苦になるのは子供の言葉の悪いことであります。敬語の正しい使ひ方が出来てゐません。私は内地から暫く離れてをりますからよく分りませんが、今日國民學校の子供をみますと、随分言葉が亂れて居ます。學校から歸つて「あのね、お父さん、今日先生がかういつたよ」などと申します。「先生がこんなことをいつたよ」などといふ言葉は日本人は使つてはいけないといひますと、「先生がかうおつしやいました」といひ直します。それで私が、「さうだ、さういふはなければいけない。「先生がいつた」といふのは拙いから氣をつけなければならぬ。」といふと、頭を搔いてをりますが、何處の家庭でも子供の言葉の悪いのには皆苦心してゐるやうであります。國民として自分の國の言葉を正しく、美しく守つてゆく、尙ほその上に守り育ててゆくことは、お互國民の義務であ

ります。今日新聞、雑誌などに國語問題が随分やかましく取上げられて居ります。例の「新標準漢字表」、「新字音假名遣表」をめぐつて、随分議論が活潑に戦はされて居ります。私は平素考へてゐるのでありますが、國語の改革に對して國語は飽までも傳統を守つて、祖先から傳つたその言葉を守り育てなければなりません。かういふことにならなければなるまいと思つてゐます。今日、新標準漢字表、新假名遣表をめぐつて、國を擧げて國語問題がやかましくいはれるといふことは、まことにいゝ機會だと思ひます。何故かと申しますと、お互國民が國語に對する認識を新にするにこれは天の與へた好機だと思ふからであります。

この頃の國語問題についての諸家の意見をよんで感ずることは、國語教育をもつともつと徹底させなければいけないといふことであります。假名遣がむづかしいとか、漢字が数が多くて困るとかいふ。漢字が難しいか、どうか、それは人による問題ですが、その前に一體吾々國民がその難しいといふ國語を身につける爲に、どれだけ骨折つて居るか、これは十分、反省しなければならぬと思ひます。そのいゝ時期だと思つてゐます。今日の「日々」の社説にも載つて居ります。國民學校から家庭へ來る通信に假名遣の誤が相當目立つ、教へる人がこの通りだから、教へられる人が正しい假名遣が出来ないといふのは、これは餘りにも當然なことだ。先づ國語を改める前に國民學校において國語の教育を徹底して、自分の國の正しい國語を理解させるといふことに骨を折らなければならぬと思ひます。これはお読みになつた方は御承知でありませうが、大體さういふことが書いてあります。もう少し申すならば、私共が、私は英語だけやつたのですが、中學時代、それからその上の學校で英語の勉強したことを思ひますと、英語の勉強に拂つた努力はどの學科よりも多い。さあ明日はデイクテーションだなどといふと、一年生の時などは cat キヤットといふやうに一つ／＼の言葉を暗記するに浮身を賣して、その日の書取に満點をとらうと意氣こんで教場に



臨みました。これは皆さんも御同様だらうと思ひます。ところが自分の國の國語の正しい書き現し方といふことの爲に英語の書取に備へる程の勉強をする人が一體あるだらうか、ないだらうか、このことを考へると國語教育といふものは大いに反省しなければならぬだらうと思ひます。もう一つ、英作文など私には苦手であつたのですが、英作文など外國語の試験では、綴り一つまちがつても、ピリオド一つ落しても何點かマイナスされます。今でもさうでせう。ところが國語の答案に、これは點が一つ足らぬ、句讀が落ちて居る、これは假名遣が違ふこれは送假名が違ふといふやうに、國語に限りません、國史でも地理でも、その他諸々の國語で書く答案で、國語を書き現はす文字、或は送假名、假名遣といふやうなものが誤つた時に、それを外國語にした時と同様に一々嚴密に採點するといふ教師は國民學校なり中等學校に果して幾人あるでせうか。かういふやうな教育が國語に對する國民の嗜みとか正しさといふやうなものを知らず識らず忘れさすやうな結果を醸し出したのだといひませう。今日も床屋へ行つて鬚を剃つて居る間に見たのですが、何處の團體の書いた標語か知らぬが、大東京の眞中に誤つた假名遣のポスターが貼られてゐます。誰の罪であるか。これは教育者の罪であります。國語が難しいといふ前に教育者は胸に手を當てて、自分の國語の正しい書き方に骨折つたかどうかを考へる絶好の機會であると思ひます。これはえらい脱線のやうであります。少くとも國語教育に携はるものは今日の國語問題に對して十分考へてゆかなければならぬと思ふのであります。

話は敬語の途中でありましたが、今申すやうに敬語は非常に難しい。難しいが我國の國民性がそのまゝ豊かに美しく言葉の上に現はれてゐます。その尤なるもの、最も著しいものが私は敬語であらうと思ふのであります。ですから敬語の指導は難しいが、骨を折らなければならぬ大事な國語の世界です。

朝鮮人は多分内地人以上にこの敬語の使用には骨を折つて居るだらうと思はれる、なか／＼出來ない。それで皆さ

んも多分疑を持つていらつしやると思ふのですが、協和會の御依頼によつて作りました協和國語讀本などに會話の文章が出てゐます。その會話が現實に皆さん方がお互の間に繰返されて居る會話に比べますと、随分縁の遠い會話だらうと思ひます。例へば道で遇つた時の應對の章がございます。

「お早うございます。」

「お早うございます。」

「何方へ参りますか。」

「一寸警察署へ行つて参ります。」

といふやうなことは必ず讀本には出て來る形ですが、現實には「何方へ参りますか」「警察署へ一寸行つて参ります」といふやうな會話を道で遇つた時に例外なく交すかといふと、さうではなく、「何方へ」「一寸警察署まで」といふ、だからその間のへだたりはかなり多い。こゝが國語の難しいところで、私が編纂して居る國民學校の教科書も、「何方へ参りますか」「一寸何處々々まで参ります」「ちや私もお伴致しませう」といふやうな會話が並べてあります。それを見て、「何だ總督府で作る讀本はだら／＼した會話で、あんな死んだやうな言葉を教へるから子供が本當の言葉が使へないのではないか」といふ批評をする人が時にあります。その批評は有難い批評ですが、「やあ、お早う」「何方へ」「といふやうなのは最も發達したものであるが、又最も難しい現し方であります。それは「お早う御座います」「何方へ参りますか」といふ言葉が土臺になつて、時と處、相手によつて、「やあ、お早う」「何方へ」といふ言葉に進歩發達して來るのですから、その土臺には正しい姿の會話を與へて、それを本人が會得して、自分のものにして、自由自在に時と相手によつて言葉の使ひ方を變へて行く、これが言葉の指導の自然の姿であります。何時でも、誰にで



も、何處にでも同じ言葉は使はれてゐません。皆さん方が弟や妹に對する言葉、お父さんやお母さんに對する言葉、同僚に對する言葉、友達に對する言葉は皆それぞれ違ふ、それが生きた國語の姿であります。その場合々に應じて生きた言葉を使ふその土臺を與へるものが國語教育で、教本に出して居る會話は、謂はゞ會話の基本になるレトルです。そこを急行が走るか、何が走るかといふことは國語力の進歩によつて決つて來ます。そこをよくお考へになつて國語を指導しないと、朝鮮人は學校で教はつた丁寧な言葉と、亂暴な言葉で話をしてゐるといふことであります。その端と端とで、中間の言葉がない。無論丁寧な言葉を使はなければならぬ場合もあります。ぞんざいな言葉でいゝ場合もあるかもしれませんが。職場に居つて忙しい場合に「何方へいらつしやいますか」「はいさうでございます」では間に合はない。ですからその場々／＼に應じた言葉使ひは必要ですが、今はどういふ言葉を使ふ、今はどういふひ廻しを使ふべき相手であるかといふことを自然と會得させなければなりません。堀先生が嘗て通譯をしてゐた時のお話を、で大變面白いお話を伺ひました。裁判の時の話ですが、判事がお前隠さんで何も彼もすつかり包ますはつきりいつたらどうだ、かういふやうに判事が被告を責めたところが、被告が實にぞんざいな言葉を使つて、「みないふとる」といふやうな言葉をつた。「みないふとる／＼」と判事に對して被告がいつて居る。それは「みないつて居ります」といふいひ方を知らないから、さういふことになつたのでせうが、神聖な法廷を瀆すものだといふので一時ざわめいたといふことであります。言葉を教へるには先づ基礎的な言葉を教へて、時と相手によつて變るところまで指導しなければ本當に身についた言葉の指導にはなりません。その中で一番面倒なのは敬語であるのであります。さういふやうなことをだん／＼考へて参りますと、國語の教育に携はる人は、何をしても正しい國語を身につけるといふことが先決の問題になつて來ます。殊に吾々の國語にはいろ／＼な特質がある。音韻でいへばかう、語法でいへばかう、

といふやうに、吾々の國語にはいろ／＼な方面に特質がありますが、それを一通り心得なければなりません。殊に敬語については十分御了解になつて、さうしてその上で指導に當るといふことが第一の問題になります。

それから次は朝鮮語を知るといふことであります。朝鮮語で育つて、朝鮮語を持つて居るものに國語を教へるのですから、教はるものの、詮り相手方の言葉を知つて居るといふことは教育の効果を多くする上に極めて大事なことであります。さういふお考へからこの講習會にも朝鮮語の講義が加へられて居るのでせう。誠に結構なことだと思ひます。少し朝鮮の方の事情を申しますと、實は朝鮮の國語教育には一つの大きな缺陷があつたのです。それで今日でも尙ほ國民學校に参りますと發音の指導に骨折つて、一年生もさうである、二年生もさうである、六年になつてもまだ「ガツカウ」を「カツカウ」とやつて居る。朝鮮が日本に合併されて、一視同仁の大御心を戴いて、忠良なる日本臣民の教育を始めた時に考へなければならなかつたことは、朝鮮人は國語とは違つた言葉を持つて居る、この言葉の違ふ朝鮮人に新たに國語を教へるのだといふ考へが、不幸にして考へる人はあつただらうが教師を養成する學校にさういふ方面の科目が缺けて居りました。もつと明らさまにいへば朝鮮の師範學校には何を措いても朝鮮語といふものを最初から加へてかゝらなければならなかつたのです。朝鮮語といふ科目があつたのですけれども、それは所謂日常の用を辨する側を主にした朝鮮語で、言語學の立場からみたその教育ではなかつたのです。國語の、特に國語の發音の指導に役立つものではなかつたやうであります。詮り語學として朝鮮語の取扱が忘れられてゐました。これが大變残念なことで、これが三十年後の今日なほ國語の、特に發音に骨折つて居る原因であらうと思つてゐます。さういふことから遅蒔きながら朝鮮人に國語を教へる教師は朝鮮語を知らなければ駄目である。本當の指導は出來ないといふことを先年から口を酢にして叫んでゐます。叫ぶのみでなく、國民學校の讀本には詳しい教師用を添へてあります



が、それにはさつきこゝに大雑把にお話したやうに、國語の五十音と朝鮮語の諺文との發音の間の比較といふやうなものも織込んで居ります。

丁度私が立つ次の日から始つたのですが、私が中心になつて京城で「京城國語教育研究會」といふものをやつて居りますが、だん／＼府内の教師諸君から希望がありましたので、九月から毎土曜日に國語の音聲學の指導をやつてをります。それは主として國語と朝鮮語を比較したものであります。さういふやうに私共は、どうかして正しい、能率の高い國語教育といふことを目指して居ます。さういふ點から致しましても朝鮮人に國語を教へる皆さん方が朝鮮語を身につけるといふことは、皆さんの指導の効果を大ならしめる、屈竟な道だと信じてゐます。この講習會で、皆さんが朝鮮語の研究をしていらつしやるのを見て、わが意を得たりと喜んで居る次第であります。さうして國語の特質を十分身につけ、朝鮮語を身につけて、二つの比較において何時でも音韻の指導、發音の指導、語法の指導に當るならば、正しい國語の指導といふものが自ら出來て來るだらうと存じます。

國語の學習に關する朝鮮人の困難といふやうな題目の話は大體このくらゐに致しまして、此度は愈々、如何なるものをどうして教へるか、此度の講習會に私の與へられた題目は「國語の指導」といふことですが、今まではその指導の地均しいひまつか、基礎工事といひまつか、國語の指導に當つてはかういふことを一應知つて置いて戴きたいと思ひましたので、今まで申しあげたことは無用の方も多かつたと思ひますが、一應お話し申上げまして、次に愈々本論と申しますか、何をどう教へるかといふ問題に入りたいと思ひます。

#### 音聲言語・文字言語

前に言葉には「話し言葉」と「書き言葉」或は「音聲言語」と「文字言語」があることを一寸申しました。申すま

でもなく音聲言語は耳と口、口で話されたものを耳で聞く、文字言語は目と手、手で書かれたものを目で讀む文字であります。

そして私共の國語教育は結局理解力と表現力の養成にあります。理解力には耳の方面と目の方面との二つがあります。つまり讀むことと聞くこととあります。表現力では口で話すこと、手で書き現はすといふこととあります。ですから國語教育ではこの四つの方面、作用でいへば理解力と表現力ですが、目と耳と口と手と、この四つのものが國語教育では陶冶されねばならないのであります。そのうちで言葉の發達から致しまして、先づ聞くことが最初の問題であります。「言語の教育は耳より」といふことをいはれますが、これは幼兒の言語の發達の實際をみるとよく分ります。而も幼兒の言語の發達は「お母さん」とか「うま」とか、「ねーや」とかいふやうな身近な、子供の生活に必要なものから先に覺えてゆきます。このことは國語の指導の最初に注意しなければならぬこととあります。以上のやうなことを大體お話ししました。それからもう一つは、國語教育の窮極の目的は讀み方であります。こゝで申せば理解力及び表現力を養ふことが國語教育の窮極の目的であります。然しよりよく文字言語の理解力なり發表力を養ふ爲には先づその基礎である音聲言語が豊かに培はれなければなりません。そこで所謂話し言葉の習練といふことが問題となつて來るのであります。皆さん方の中には國民學校なり中等學校の教壇の御經驗をおもちの方も少くないやうに承つて居りますが、これまでの我が國の國語教育は、今日随分と發達して居りますが、又一方に手落ちの點も少くないやうであります。どういふ點に從來の國語教育の手落ちがあつたかと申せば、話し言葉、音聲言語の教育にぬかりがあつたやうであります。お互はおしなべて話が下手です。話が下手だといふことは少し表現が拙いが、口を以て自分の意思なり感情を誤なく、而も分り易く發表するといふことがうまくいつてゐない人が多いのであります。こ



のことは従來の教育で話し言葉の習練を輕んじたといふ結果であらうと思ひます。然し今日、國民學校におきまして、この方面に相當努力して居りますから、聽て失はれたものが取返される時期も、遠くないことと思ふのであります。

話を前へ進めますが、皆さん方の御指導の對象である勞務者に一體何を教へるか。これは恐らくは職場に必要な國語が第一に考へられるだらうと思ふのであります。然しその職場で必要な國語を教へる前に、或はそれと一緒に、先づ身の廻り、日常の生活語を與へる。日々の生活を國語で營む、それに必要な國語を與へるといふことが第一に考へられなければならないと思ふのであります。

そこで問題になつて來るのが教本であります。教本と申しますか、讀本と申しますか、この教本或は讀本、これは指導の地位にある皆さん方にとつてはなか／＼大きな問題であらうと思ひます。或る方は直接この教本なり讀本の編纂といふやうなことに關りをもつていらつしやる方があるかも知れないと思ひます。だん／＼申上げたやうに今朝鮮におきましても國語普及の爲に教本を編纂して居ります。私どもも、數年來からその爲に教本を編纂して居りますが、この教本の編纂はなか／＼難しいのであります。第一にその對象である生徒がまちまちであるといふこと、このことが教本を編纂する上に困難なのであります。私共直接の仕事は國民學校の兒童に與へる讀本であります。この方は程度は大體一致して居るから、程度といふ問題には左程苦心致しませぬが、一般大衆と申しますか、國語普及の爲の教本は、對象の程度がいろ／＼ありますので、何時も惱まされるのが程度の問題であります。入口は大體一つところから出發しても、何處を到達點として狙ふかといふことになると、随分まちまちなので苦心が多いのであります。

念の爲に一寸こゝで申し上げますが、こちらの協和會の方の國語指導の「協和國語讀本」といふ本が出て居りますが、程度その他の點で文部省編纂の國民學校の讀本をお使ひになつて居るところもあるやうに聞いてをります。無論程度によりまして文部省の『ヨミカタ』が適當なところも少なくないだらうと思ひますが、文部省のあの『ヨミカタ』は前にも申し上げたやうに學校に入學した時に、語彙でいへば平均五千幾ら、もう全く日常の生活に不自由のない國語生活を營んでゐるものを對象にして編纂したものであります。もしも皆さん方の指導の對象がそれと同じやうな状態であれば、あの『ヨミカタ』をお使ひになつても差支ないと思ひますが、若もそれと違ふ状態にあるならば考へ直さなければならぬのぢやないかと思ひます。名前は同じ『ヨミカタ』ですが、私共が編纂して居ります國民學校の『ヨミカタ』は御承知のやうに、全然國語を知らないもの、學校に入りまして始めて國語を學ぶもの、その指導といふことを考へて編纂したもので、文部省のものとは全然行き方を異にしてゐます。うっかり用意を忘れて來たのでお目にかけることが出来ませんが、大體を申し上げますと、初めの方、確か十四頁と思ひますが、十四頁は全く文字のない、繪だけの教材であります。その繪はどういふ場面をとつて居るかお申しますと、ほとんど學校生活の場合です。最初には朝會の場面をとつてあります。それから列を正しく教室へは入つて先生からお話を聞いて居るところ、本を讀んで居るところ、唱歌を歌つて居るところ、運動場で體操して居るところ、或は先生に「さやうなら」をして歸るところ、途中友達と連れ立つて農夫の働いて居る田圃の道を歸るところ、家へ歸つてお父さんお母さんに挨拶して居るところといふやうな場面を都合せて十四の繪に現はしてあります。この繪の教材は言語修練のはから何を目標にして居るかお申しますと、無論日常生活、もつと端的にいへば直接學校生活に必要な言葉を授けよう、つまり學校生活用語を授けようといふので、そこには學校生活に必要な基本的な語彙と基本文型といふものが用意されて居り



ます。約一月の間この繪教材で、指導されて、凡そ先生の仰しやるのが、最低限度の教室語、學習に必要な言葉が、喋ることは兎も角として聞くことが出来る。さういふところを狙つて編纂されてをります。それから追々文字を教へるといふやうになつて居ります。もしいろ／＼な事情で國民學校の讀本をお使ひになるならば、その情況によりましては文部省の編纂しました「ヨミカタ」よりも、朝鮮總督府編纂の國語を初めから始める兒童を対象にしたものが或はお役に立ちほしいかと考へるのであります。

ところでこちらの「協和國語讀本」であります。確か私共もお手傳ひしたやうに記憶してゐますが、一寸見れば何でもなく極く簡單なものであります。教科書の編纂の仕事といふものはなか／＼簡單なものぢやなく、この間も文部省へ行つて監修官と話をしてみますと、「森田さん、教科書の編纂などは孫子の代までさせるものぢやないですね。」といふやうな話が出ました。これはその仕事に當るものだけにわかる苦しみで、そんなことをいつても泣きごととしか聞えないだらうと思ひます。前に國語の辭書に、多いものは七十萬のことが拾ひ上げられて居る、最も新しい辭苑には約十六萬の語が集められて居る、さうしてお五大人の持つて居る語が一萬三四千、さうして普通に使はれる言葉が約五千だといふやうに申しましたが、これらの多くの言葉を總て出すといふことは到底出来ませんし、その必要ありません。子供の程度も許さないし、教科書の分量といふやうなものも許さない。それで夥しい國語の言葉の中から何を選んで與へるかといふことがこの教本なり讀本を編纂に第一に頭を痛める問題であります。その標準は申すまでもなく基本的な、最も利用の廣いもの、一應知つて居れば大抵の場合に利用の出来るものといふやうなものを私共は狙つて居るのであります。ところが國語はなか／＼複雑な言葉です。一二、例を擧げて申しますと、私共の國語には同じ意味の言葉が澤山ある。例へば朝食べる御飯のことでも國語にどれくらゐる言葉の數がありますか。朝

御飯といふ言葉がある、朝飯ともいふ、朝めしといふ人もある、朝食といふ人もあります。同様にお晝に食べる御飯でも、晩に戴く御飯でも相當言葉の數が多い。晩に食べる御飯など思ひつくまんに書いて來ましたが、晩御飯、晩めし、夕食、夕めし、夕飯、お夕飯、お夕食、それから少し改つていふ晩餐などもかなり廣く使はれてゐます。このやうな同じ意味を現はす言葉のうちで一體どれを與へるか、これらは決して死んだ言葉ではなくて、それ／＼人により、地方によつて現在生きて居る國語です、そのどれを與へるか、これは詮り標準語、東京の中流社會に使はれて居る言葉、それがまあ標準語といふことになつて、國語教育ではそれを與へることになつて居ります。それならば晩戴く御飯の中で、今申上げた中でどれが標準の言葉になつて居るか。御承知の方もありませんが、「晩御飯」といふのが標準語としてとりあげられてゐます。文部省の編纂した讀本に「晩御飯」といふ言葉が使はれてゐます。ところで言葉といふものは、實に何と申しますか。「晩御飯」ではどうも氣分がうつらないといふやうなことを仰しやる方があります。私共などでもいろ／＼ものを書く時に「夕めし」と書きたいことがあるが、それは個人の趣味といふやうなこと。この現はれて、國語を學ぶ人達にとつてさういふ贅澤なことは二の次で、先づ日常の生活に必要な言葉を狙はなければならぬ。「贅澤は敵だ」とこの頃申しますが、贅澤は後廻しにして先づ日常の生活に必要な言葉、これが言葉を選ぶ時の標準にならなければならぬと思ふのであります。語彙に致しましても今申しましたやうに、「朝御飯、晝御飯、晩御飯」といふ極く卑近な例を取りましても澤山言葉が擧げられる、それから何を選ぶかといふことはかなり苦心を要するところでありませぬ。それで基本語調査といふ大きな問題があるわけです。何が基本の語であるか、何が生活に最も直接的な言葉であるか、吾々が扱ふ言葉、その言葉を選ぶ標準がちゃんと調査出來て、さうして今の「晩御飯」といふやうになりますならば、言ひ換へればさういふものをちゃんと調べて、これだけのものは最低現度



支へるといふ、かういふ基礎の調査といふものが第一の仕事でなければならぬのですが、不幸にも今日までのところ、時間と金と勞力を要する問題なので、非常に大事な、必要な仕事であるけれども、私の目の届くところでは現在日本には基本語彙の調査といふものは残念ながら出来て居らないのであります。このことは早急に一つ國家の手でやるやうなことに致したいものだと思つて居ります。

昨日の午後私は、御承知の方もあらうかと思ひますが、大西雅雄といふ先生にお會ひしました。この先生は東大の音聲學の方の出身の先生であります。この先生が日本語とタイ語との辭書を作つてゐます。三年の豫定で今年から始めたさうです。それはあり來りの日本語の辭書をタイ語に譯するのではなく、まづ所謂日本語の基本語彙を集めて居ることです。ですからそれが出来れば日本語の基本語彙といふものが出来るわけですが、外に學者でさういふ仕事をしていらつしやる人は今のところ聞かないが、一日も早くさういふものが出来ることを大いに期待して居るものであります。

もう一つ、生活になるべく必要な言葉を與へる、詮り數多い言葉の中からなるべく生活に必要な、身近な言葉を與へるやうに心掛けねばなりません。記憶力の衰へて居る人達に無制限に澤山の言葉——單語を記憶させようとしてもそれは困難であります。この點からも與へる言葉を吟味するといふことが重要なことになつて來るのであります。

此度は基本文型について申しあげます。單語を一番餘計知つて居る人が一番いゝ話手とは限りません。詮り單語さへ知つて居れば日常生活に差支ないといふことにはなりません。單語も必要ですが、その單語を使つて話を運ぶ基本になる文型を知つて居ることが一層大切であります。そこで基本になる文型を與へるといふことが初歩の國語指導には非常に大事なことになつて來るのであります。さういつたことは無論教本の編纂には考へて居るのであります。

現在私が喋つて居る言葉を仔細に記録して、それを解きほごしてみるならば、恐らくはこゝへ挙げましたやうな基本文型がいろ／＼に組合はされて私のかういふ講義になつてゐるのでありませう。だからそのもとは極く簡単な、「これは〇〇です」「あれは〇〇です」とか「これは〇〇ですか」といふやうな極く簡単な基本文型がいろ／＼に組合はれて複雑な思想を現はす。私の談話又は會話になつて居るのだらうと思ひます。殊にこの講演とか講義とかいふものはかなり複雑なものです。お互の日常の會話はこの基本文型に近いものだらうと思ひます。「今日は大變暑いですね」「昨夜はどうも暑くて眠られなかつた」といふやうな日常お互の間に交される會話は、餘程この基本文型に近い形で繰返されて居ります。それで日常の會話に習熟させることを先づ目當にする國語の初歩の指導には基本文型を與へることが極く大事なことであります。「これは何ですか」「これは〇〇です」とある、この〇〇、こゝへは名詞が入るのです。ですから「これは時計です」といふ形を知つて居れば、こゝへそれに代る單語を持つて來ればいろいろなことがいへる。「これはノートです」「これは帳面です」「これは紙です」「これは机です」「これは椅子です」「これは白墨です」「これは黒板です」といふやうな應用がどん／＼出来る。さつきこちらの協和國語讀本を載いて、つい、持つて來るのを忘れましたが、それには無論「これは〇〇です」といふ教材が出てゐます。さうしてそこへ單語が幾つか挙げられてゐます。

十頁に「コレハ、ハナデス」といふのがあります。一番初めに考へて居つて戴きたいのは、これは、全部がさうとは限りませんが、少くとも片假名に書いてあるところは、これは讀む本でなくて話す本であるといふことであります。そこで「コレハハナデス」といふこの基本文型で十分練習する。「コレハハナデス」、さういつたらその次のものをもつて來て、「コレハホンデス」、此度は外のものを出して「エンピツデス」といふやうに、次々に「コレ、ハナデ



「ス」といふ話し方を練習する。そこに擧げてある單語はその應用の爲に擧げてあるのであります。例へば「ウシガキマス」といふ教材がある。そして「ハト、カラス、ウサギ、ネズミ」といふやうな單語がある。それは「ウシガキマス」といふ基本文型を與へて、「ハトガキマス」、「カラスガキマス」、「ウサギガキマス」、「ネズミガキマス」、「アヒルガキマス」、その次には「ハトトカラスガキマス」或は「カラストウサギガキマス」とか「アヒルトハトガキマス」といふやうに、かういふやうに話の稽古になるのであります。それで母語を持つものにとつて、新しい言葉を習はせるのに一番大事なこととは聞き方であります。耳です。なるべく澤山聞かせる。さうして正しく、詳しく聞きとらせる。これには教へる人の發音といふことが問題になつて來ます。これは向ふの國民學校の國語の教へ方についてでありますが、向ふでの國語の教へ方をみると、聞かせることと同時に喋らせる、それはいい、聞くことと話すことは全然表裏一體でありますから、ところまだ十分正しく聞く練習が出来てないので、話すことを性急に要求するので、正しい發音が出来るかどうかといふことは、正しく聞いて耳が出来て居るかどうかであるから正しく聞かないで正しく話すことは出来ない、それで餘り早く話すことを要求すると、發音が歪んでしまふ、さういふ弊害があります。ですから初めの間は専ら聞き方に力を入れる、丁度土瓶に先づ十分水を入れると、土瓶の口から水が溢れ出るやうに、一杯入れて自然に溢れ出るやうに、十分聞かせる、受け取る方をまづ先にやる、さうすればいいものが出來ます。さういふやうにして、もうもちこたへ得ないといふ時になると水が溢れ出るやうに、どん／＼と出て來る。さういふやうにすればいいといふやうなことを話したことがあります、これは國民學校の生徒で、勞務者とは多少事情が違ふかも知れませんが、十分正しく詳しく聞かせるといふことが大事なことであらうと私は思ふのであります。それで、國語の指導には、何よりも耳を忘れてはなりません。ところが國語を教へることは難しいことで、聞かせることに骨折

ることは、やがて習ふ方が受身になる結果となります。受身になると自然消極的になる、さうぢやなくて向かふ方から働きかけて來る、能動的な態度をとらせるといふことでなければ總ての仕事といふものは進歩發達しないのですから、此度は自ら進んで話すといふやうにして導く、これは口でいへば簡單ですけれども難しいことだらうと思ふのです。それで先づ正しく聞くといふ受身の態度をつくるが、やがて此度は進んで話す、それには餘程教へる人が廣い心持をもつて、始めて國語を學ぶのですから、間違つたこともいふし、いふことも拙いでせう。それでかりそめにも間違つたからとて咎めたり、拙いからと笑つたりする、さういふ狭い心では、その人は教育者の資格に乏しいといはなければなりません。廣い心をもつて、「さうだ」といつて間違ひを咎めず、若しその人のいいところがあるならばそれを取上げて鼓舞して、興味をもつて國語の學習に進むやうに導いてゆくといふ、さういふ態度が願はしい態度かと思ふのであります。このやうに教師が愛をもつて導くならば段々國語は面白いものだと思ひ、従つて國語の學習に興味をもつて來ます。かうなれば、その進歩には著しいものがあらうと思ふのであります。このことは非常に大事なことで、これは皆さん方教育に御經驗の方が多いやうでありますから釋迦に説法かと思ひますが、思へば随分骨の折れる仕事です、お互神ならぬ身ですから、時には腹を立てることもありますが、對象は相當年輩の人ですから間違ひを咎められたり、拙いといつて笑はれたりすると相當恥ぢることもありませうから、これは相當注意しなければならぬと思ひます。

もう一つ大事だと思ふのは、皆さん方が直接教へていらつしやる方もあらうかと思ひますが、それにはかういふことが大事であります。何十人か教へて居ると、出來るものはそれを相手にして居ると授業もやりいゝし、殊に參觀人でもあつた場合はその教室が榮えるので、所謂優等生の指導といふものに先生の指導の主力が注がれて、劣等生の指



導といふものは一向に顧られない、成績のいゝものには先生の手が加はるが、悪いものは置きざりになる、これは語學の指導には殊に氣をつけなければならぬことで、出来るものは放つて置いて、何處かまで自分の力で進んでゆく、出来ないもの、力の弱いものこそ情の手をかけて指導してゆかなければならぬものだらうと思ひます。よく私は國民學校の先生に申すのですが、學校に入つてから卒業するまで六年間一度も先生に本を讀ませていたかかないで済む人があります。讀めないのではなく、話せないのではなく、讀ませないから讀めない、話させないから話せないのだ、そしてそのまま學校を卒業して行く。そんな教育が何處にあるか、と。ですから出来ないもの程、分らないもの程目をかけて、情をかけて導いてゆく、かういふ態度が指導者としては大事であらうかと思ふのであります。これは文字通り釋迦に説法ですが、兎角出來の悪いものは忘れられ勝ちなものですから念の爲に一言申して置きたいと思ひます。

こん度は實際の教材をこゝに取上げて、かういふやうにして指導してみたらといふやうな具體的な話をしてみたいと思ひます。こんなおかしなものを書きましたが、これは國語の指導の方法、導き方にかういふやうに方法が二様に

あるだらうと思ふのであります。まだ外にあるかも知れませぬが。昨日は或る教材をこゝからこゝ( a )まで教へた、今日はその次( a—b )、それからその次にはこゝからこゝまで( b—c )といふやうにいく階段的な扱ひ方といふものがあります。これは順序正しい扱ひ方にみえます。こちら(右)は何かこちや〜と分り悪いかと思ひますが、螺旋狀に上つてゆくのを書いた積りであります。詮りこちらは昨日の教材、さうして今日の教材はそれに關係なくその上にゆくといふのではなく、昨日やつたところはもう一遍今日後戻りしてやつて、さうして今日の教材へ進んでゆく。それを別にいへば、國語の指

導には、昨日習つたところを今日はもう一遍繰返して復習して、その上に今日の新しい指導を、復習、新しい指導、復習常にこのやうに、毎時間、前の時間の復習を出發にして指導を進めてゆくといふ仕方です。復習を進めていつたらと思ふのであります。どちらが効果的であるかといふことは申上げるまでもなからうと思ひます。實際の例について、

コレハ、トケイデスカ。  
ハイ、サウデス。

といふ教材があつたとする、無論かういふ教材は出て参ります。「コレハ、トケイデスカ」「ハイ、サウデス」、もう一つは否定の場合の「イエ、サウデハアリマセン」、かういふ教材は、詮り「コレハ、〇〇デスカ」といふ文型です、その答として肯定の「ハイ、サウデス」、否定の「イエ、サウデハアリマセン」、かういふ文型が吾々の日常の言語生活に非常に頻繁に出て来るし、従つて非常に大事な文型であるといふことは説明を要しないと思ひます。吾々の朝から晩までの會話の中にかういふものは始終繰返されて来るだらうと思ひます。従つて多分かういふものが教本の中に取り入れられてあると思ひます。

コレハ、〇〇デス。  
ソレハ、〇〇デス。  
アレハ、〇〇デス。

かういふものが教材の前に基本文型として出て来て居るに相違ありません。それでかういふこと(コレハ、トケイデスカ)は既習のことである。それでかういふ教材が出て來ましたならば、前の復習として、第一に「コレハ、〇〇デス」といふ文型の話し方の復習を先づする。「コレハ、トケイデス」、あなたいつて御覽なさいといつて、いはせ



る。それからだん／＼生徒の持つてゐるものを取上げて「コレハ、ホンデス。」「コレハ、カミデス。」「さういふ練習をやらせる、復習ですね。此度は少し違いものをいつて、「ソレハ、イスデス。」「ソレハ、トケイデス。」「ソレハ、ツクエデス。」「ソレハデントウデス。」といふふうにならに指していつて「ソレ、ハ○○デス」といふ文型の練習をする。それが済むと「アレハ、ヤネデス。」「アレハ、マツノキデス」の文型を練習する。さういふやうにして前に習つて居るものは必ず注意して掲げて練習していくことが大事であります。「コレハ」といつて「○○デス」で、白墨から白墨をとる、その「コレハ」に聯關して「ソレハ」「アレハ」を復習してゆく。次に此度は「コレハ、トケイデスカ」といふものをこゝへおり込んでゆくのですが、「コレハ、○○デス」の次には「コレハ、○○デスカ」といふ基本文型が出て居る。先生がかういふものを持つて、「コレハ、ナンデスカ」「ソレハ、トケイデス」「ソレハ、ナンデスカ」「ソレハ、○○デス」「アレハ、ナンデスカ」「アレハ、○○デス」、かういふやうに「コレハ、ナンデスカ」といふ基本文型の練習をさせて、さうして六十人をつたら、六十人一人々に言はせるがよからうと思ひます。いろいろ思ひわづらうて居ることはありません。「コレハ、ナンデスカ」といふことを稽古させ、また「ソレハ、ナンデスカ」を稽古し、さらに、「アレハ、ナンデスカ」といふことを稽古する。さういふやうにして「コレハ○○」「ソレハ○○」「アレハ○○」を練習し、今までの練習をすつとさせて、愈々新しい今日の教材に入つてゆく。まづ「コレハ、トケイデスカ」と、かういふ。すると、大勢の生徒の中に手を舉げる者があつて、「ハイサ、ウデス」、かう答へるものが豫想される。それをなんべんも繰り返へさせます。一遍や二遍ではいけません。根氣よく繰返へすがよいのであります。ともすれば學校ではこの反覆練習を約すので困ります。なるべく多くのものをはせなければならぬことは申すまでもありません。私の家の子供などに、「本を讀んでいかなければいけないぢやないか」といふと、

「僕は昨日讀んだから、暫く讀む番がまはつて來ないから讀んでいなくてもいい」といひます。學校では讀む順が決つて居る。昨日讀んだから順番が當分は廻つて來ないから讀んでゆかなくてもいいといふ。さういふことは柱に膠して云々といふことがあります。かういふやり方では成績はあがりつこないであります。勿論さういふことはなさらなういふし、なさらなういふにしたいです。教室では一分の際もないやうに、油斷のないやうにしないと教育の効果は擧がるまいと思ひます。そこで順序を決めて置いて「はい次、はいその次」といつてゐては駄目です。僕のところへは來ないから大丈夫だと油斷して居る。習ふものの心に油斷を與へるのは教へ方としては一番拙いのであります。しかし、同じ生徒を十遍も指して、讀まさないものには一向に讀まさない、このやり方も大層下手なやり方であります。そこは先生は八面六臂でなければなりません。六十人あつたら、その六十人を自分の思ふやうに動かす、かういふことは修練を要することですが、希くは教師はさうありたいものであります。さうして、「コレハ、トケイデスカ」といふことを聞くこと、さうして「ハイサウデス」といふ答を口でいはせること、耳と口、兩方をうんと練るのです。まだ本を開かない、先生が黒板にも書かない。私は假に書いたが、まだ書かないで、うんと口の上と、耳の上で練習をいたします。「コレハ、トケイデスカ」「ハイ、サウデス」……「トケイ」だけいつては拙いが、椅子なら「イス」、黒板なら「コクバン」、電燈なら「デントウ」を「トケイ」と置き換へて、いろ／＼なもの置いて、この形を縦横に練習させて、子供の耳になれさせる、さうして、「これでよし。」と思ふやうな時に、はじめて黒板に書く。ところが黒板へ書く時に、これは教師のこつたと思ふが、前に「コレハ、○○デス」といふことは文字で知つて居るのですから、「コレハ、トケイデス。」といふことを書く、そして愈々その練習が出來たら、「コレハ、トケイデス。」とある「。」を消して、「カ」を添へて書く。さうすると「デスカ。」といふ一つの新しい文型が與へ



られる。さうして「ハイ、サウデス。」かういふやうにして始める。詮り先づ耳と口、それから始めて目に見せて、それから讀ませる。その時も十分にこれに熟するまで讀ませなければなりません。

此度は「コレハ、イスデスカ。」「イイエ、サウデハアリマセン。」といふ返事を要求する。「コレハ、ハクボクデスカ。」「イイエ、サウデハアリマセン。」詮り否定の場合の返事の出るやうな話し方をうんと練習する。それをさつき申したやうに又耳と口の練習を、それこそ耳にたこの出来る程練習し、始めて「イイエ、サウデハアリマセン。」といふ文字を見せる。そして文字の上で此度は十分練習する。ですからこの音聲言語、話し言葉の指導は耳に始つて、目に入る。今そこまで話して居りますが、それから何處へ抜けるかといふことをこれからお話しします。兎も角も文字といふものは初は見せない。先づ聞かせ、話させる、耳と口の習練をどん／＼重ねていつて、さうして十分練つた時に、はじめて文字を見せる。もしも教本があれば教本を讀ませることも一つの方法であります。教本は一つの記憶或はおさひひのよすがであり、餘り教本を讀むことをやると讀む本になり勝であるから、その取扱には注意を要します。此度讀んでも、終にこれも消してしまつて再び耳と口の練習に歸つてゆく。さういふやうに耳と口の練習をして、それで始めてかういふ文學の上には現はして、視覚に訴へる。文字といふものは記憶の一つのよすがになるものだから文字といふものも否定することは出来ません。そこに文字の強さといふものがあります。そして又文字を離れて、耳と口に歸つていつて、十分會話の練習をする。かういふやうに常に聞くこと、話すことといふことを中心にして、練習を積んでゆくことが話し言葉の、詮り會話の指導の有力な方法ぢやないかと思ふのであります。その上で文字を指導して行く。指導者に立派な話し言葉指導の系統案をもつて居れば教本は寧ろ使はない方が効果が擧がるのではないかと思つたりしてゐます。といふのは、だん／＼私共國語の講習會などをみますと、話すことを教へる、話

し言葉の習練、指導といふことを忘れて、本ばかり讀まして居る。本ばかり讀まして居るから、なか／＼話す力は進まないのです。この協和國語讀本も確か指導者用と申しますか、教師用も併せて作るやうにとのお願があるんですけど、私共忙しいのでつい延び／＼になつて居るんであります。例へば五頁に「イスガアリマス。」ホン。トケイ。ツクエ。コシカケ。コクバン。とありますが、これらは「イスガアリマス。」「〇〇ガアリマス。」といふ基本文型の練習、そこへ、ホン、トケイ、ツクエ、コシカケ、コクバンといふ單語を入れて、自由に話言葉の稽古をする。それを只「イスガアリマス。ホン。トケイ。ツクエ。コシカケ。コクバン。」と棒讀みをさせただけでは何にもならないのであります。ですから初の、殊に九頁か十頁、十二三頁頃までは簡單であるから本からは全然離れて、今申上げたやうな要領で話し言葉の指導といふことを考へて御指導になれば成績は十分擧がると思ひます。これは大體の要領で、これが必ずしも最善の途であらうとは申しませんが、まだ／＼工夫によつて道はいくらもありませうが、要するに語學の指導は反覆といふことを忘れてはならない、階段的な進み方ではなくて螺旋を描いて進んでゆくといふことが始めて國語を學ぶものに對する指導として最上の方法ぢやないかと考へて居るのであります。

これで極く大雑把ではありますが、指導のお話は大體申上げたのですが、まだ重要な問題が残つて居るのです。最後の纏にお話しようと思ひますが、教へる人の國語、言葉、このことはかなり朝鮮においても主要な問題であります。が、朝鮮以上に内地においては教へる立場にある人が十分御注意になつて教壇に立たなければならぬ問題のやうに考へて居ります。

皆さん方は朝早くから晩まで随分御精の入つた勉強で、街へおいでになることも少いと存じますが、私はなるべくこの機會に澤山見たり、澤山聞いて勉強して歸りたいと思つて、ぐる／＼市中を廻つてをります。何時ものことです



が、東京へ来て驚くことは人間の多いことで、一體何處からこんなに出て來るかと思ふ程で、昨日も新宿の方へ参りまして、丁度時間がひけ時であつたせゐでもありませんが、全くあの廣いホームが人で埋つてゐます。恐らく萬を超えてをつただらうと思ふが、私ちつとして、電車に乗るのも忘れて人の顔を見てゐました。ところが不思議なことに、あの夥しい人間に、同じ顔の人間が一人も居らない。これは實に大発見だと思ひました。男も女も、年寄も若い者も、田舎の人も都會の人も居るが、一人として同じ顔の人間がゐない。同じ日本人であるのに、同じ顔の人間が一人もゐない。私は大なる発見をしたと思ひました。差別觀に立つて眺めますと全く同じ顔貌のものは居りませぬが、立場を變へてみますと、その各々の違ふ顔貌の人も、これは例外なく目は二つとも横に眉の下についてをります。鼻は顔の眞中に縦について居り、鼻の下に口がついてゐます。かう觀方を變へてみると例外なく同じ顔をしてゐます。これも考へてみると不思議なことに思はれます。ものは觀方によると随分いろ／＼な觀方があるものであります。もしあそこに立つて居る人、あの夥しい人に口を一人々々きかしてみる、喋らせてみたならばどうでせうか。これは顔貌が皆違ふやうに、必ず同じ聲の人、同じ話しぶりの人は恐らく一人もあるまいと思ひます。それは無理もないことで、息の力、聲帯の強さ、或は長さ、それから齧齒の數、口の廣さ、口腔の中の廣さといふやうなものが銘々違つて居る筈です。それで、それからつくられる音聲でありますから萬人が萬人違ふのも、無理のないことであります。ところがこれも差別觀に立つていへば萬人が萬人違ひますけれども、その語るところは日本語、國語であります。さういふやうなことを考へてみますと、言葉といふものは一人々々について觀察してみますと、一人々々が個性をもつて居ります。それは先天的のこともありませうし、又後天的な原因、要素も加つてゐるだらうと思ふのであります。皆さん方が生まれられた、或はお住ひになつてゐる地方によりまして、それ／＼その地方特有の言葉がある筈でありま

す。これが詮り今日一通りお話ししてみようと思ふ方言であります。

石川啄木といふ歌人があります。この啄木の歌に「ふる里の 訛りなつかし 停車場の人込みの中に さを聞きに行く」といふのがありますが、お國言葉はお互にとつて懐しいものに相違はありません。しかし國語教育といふ立場から一應この問題は考へてゆかなければなるまいと思ふのであります。私京城からこちらへ参ります時に、汽車の中でいろ／＼な方言の見本をみました。下ノ關から参りますと、徳山から丁度向かひに乗り合せました方が、滿洲國の警察の制服を着てをります。だん／＼お話をしてみますと、その方は大變發音が重いのであります。實は私も重いので、目糞、鼻糞を笑ふといふことになりませんが、その話しぶりを聞いてをりますと、この方は東北の方、仙臺か、秋田の方だといふ見當がつかます。それから「よろしうおす」といふ話しぶりの方が京都から乗りました。その人が京都から乗つたといふことでも分るやうに、京都地方の人といふことが直ぐ分ります。それで、ものの三分と話をしてゐると、その出身の地方が分ります。そのことは大體日本における方言の分布といひますか、さういふものを承知して居れば大體見當がつかます。方言がどうして出來たかといふやうなことはもう二時間しかありませんのでお話を出來ませんが、いろ／＼、徳川時代よりもつと遡りますが、昔の政治的な關係その他から地方によつて言葉が違ふやうになつたのであります。日本アルプスを大體境にして、あの日本アルプスから流れ出る天龍川を境に致しまして、東の言葉、西の言葉と分かれて居るやうであります。このことは相當古い時代からさういふやうになつて居ます。一二、例を申し上げますならば萬葉時代、萬葉集に御承知のやうに東歌といふ一群の歌があります。その東歌は今日で申しますと遠江……と申しますと、一部は愛知縣、一部は静岡縣になります。その遠江から駿河、信濃、常陸、上野、下野……この關東一圓の地方の人達によつて歌はれた歌のことをいひますが、それは特殊な、當時あつたと



いはれた地方の方言がかなり歌ひ込まれて居ります。東歌といへば田舎の歌といへるのであります。これには多分に東日本の方言が織込まれて居るのであります。

下りまして平安朝時代にできましたものを讀んでみますと、東の方のもの、私も東の方の出身ですが、東國のものをあづまどりといふ有難くないことばでよんだものがあります。一種の悪口です。それから太平記とか源平盛衰記とかいふものを讀んでみますと、これは皆さんもお讀みになつて御承知のやうに、詮り坂東ですね、東の方の聲は一種野暮な聲だといふやうなことで坂東訛とか坂東聲とかいつて居つたことが文献の上に残つて居ります。それから更に下りまして室町時代、この時は無論政治の中心は京都でありました。そして京都の言葉が中心でありまして、今日でも京都、あの邊を上方といひますが、あの京都地方の言葉を室町時代には上方言葉といつて居ります。そして、西の言葉。九州地方の言葉を下の言葉。かういふやうにいつて居りまして、上方を中心に、東は關東、西は九州と、かういふやうに分けて、上方の言葉が標準の言葉で、東の言葉も西の言葉も標準の言葉から離れた言葉とされて居りました。今日標準語として残つて居ります、「京へ行く」「何處々々へ行く」といふ時の「へ」これは當時の上方言葉では「京へ行く」で、かういふやうに已に室町時代には「何處々々へ行く」といつて居つたのを關東では「京さ行く」と「さ」といひ、下の言葉は「京に行く」といつた。「京へ、筑紫に、坂東さ」と合言葉のやうにいはれて「何處々々へ」といふ現し方に上方では「へ」、坂東では「さ」、筑紫では「に」を用ひ、この言葉が今日も文献の上に残つて居ります。

これはテニヲハですが、さういふ言葉の違いは更に室町から下りまして江戸時代になりましたも依然として残りまして、此度は用言、働きの言葉で申しますと、これは今日皆さん方もお聞きになつて居ると思ひますが、「大阪さか

い、關東べい、長崎ばつてんは代表的な方言になつて居ります。大阪では「今日は暑いさかい」とか「何々さかい」といひ、關東では「行くべし」、長崎では「何々ばつてん」といふ。

さういふやうに古くから日本には方言といふものがあつたのです。今日大體方言の區劃と致しまして、本州の東部方言、これは二つありまして關東方言と東北方言、これを更に小分けに致しますれば、關東、東北の方がいらつしやれば、これにも例へば三陸地方の方言とか、出羽の方言とか、細かくなりますが、さういふことは省きまして……それから本州西部方言、これは近畿、中國、四國もこれに入ります、この三地方の方言を引括めまして本州西部方言。それから九州は對立しまして九州方言。それから琉球は特殊な言葉の地域になつてゐて、三つの外になつて居ります。大體日本の今日の方言の區劃はこの三地方になつて居るやうです。それ／＼この三地方の方言は特徴があるやうです。皆さん方の中にはそれ／＼の地方からお集りのやうでありますから大體の見當をおつきになると思ひます。すでに御承知のことと思ひますけれども、一通りお話を申し上げますならば、一口に方言と申しまして第一に音の上の方言、音韻と普通學問の上ではいつて居ります。これはさつき私が滿洲國の警察官の方がどうといひましたが、この方は結局仙臺の方であつたさうです。東北方言は所謂う／＼辯といはれて居りまして、方言としてはかなり顯著であります。私こちらの御用が濟みますと、郷里の新潟の方へ歸りますが、奥羽本線で白河の驛へ参りますと急に……今日は驛の立賣は居りませぬから、少しは居りましたも、餘り耳につかないだらうと思ひますが、以前は白河の驛に参りますと非常に所謂東北のう／＼辯が耳につく、皆さん方も平素耳にしていらつしやると思ひますが、「ススにベントウ、マンズウ」といふやうなことをよくいつてゐます。東北の所謂う／＼辯はシとスの區別がうまくゆかない。それからチとツです、これの區別がうまくゆかない。詮りシとすべきところをスとする。マンジュウといふ



べきところをマンズウといふ。それからチといふべきところをツといふ、マツチといふのをマツツとしてしまふ。それで梨と茄子などは漢字で書けば分りますが、これを發音通り書けばどちらもナスで、アクセントをはつきりいへば分りますけれども、向かふの人は皆ナスノといつてしまつて、どれがどれか分らないといふやうなのが大體東北地方の方言で、これを方言學では四ツ假名と名づけて居ます。それから面倒なのはイとエの區別。だからかういふことをいつてゐます。これは九州地方の方は可笑しいくらゐだと思ひますが、アエウエオといふ發音をする。イの音が出ない。随分可笑しい。イロハにはエが幾つあるかといふ、随分可笑しい。

ところが言葉といふものは非常に難しいものでありまして、このイとエの區別が明瞭でないのは單り東北方面ばかりでなく、恐らくこの席にはその地方の方もいらつしやるかと思ひますが、出雲がエとイの區別が明瞭でない。ですからあそこの師範學校では卒業生を、出雲出身のものは石見の方にやつて、石見の出身を出雲にやつて成績を擧げてゐます。石見は隣同志ですがすつかり違ふ。さういふ私が大きな顔してゐますが、私の國も御多分に漏れないで、イとエの區別がない。今までのお話で多分拙い言葉だと思つてお聞きになつたと思ひますが、私共は中學を卒業してもイとエの區別は分らなかつた。そんなもののあることを知らなかつたのです。これはイスのイだこれはエダのエだといふふうには學校の先生が教へてくれました。すつと大きくなつてから、これはイと發音すべきである、これはエと發音すべきであるといふことを漸く覺えました。随分可笑しい話であります。この頃でもうすつかりするとしくじつてしまふ。他所へ講演などに行きまして、少し氣合がかゝると、エノチ(命)がといふやうなことをいつて皆の人に笑はれます。「又やつたな。」と思つて冷つとしますが、子供の時に覺えた發音はなか／＼抜けきらないで困つて居ります。それから東京、皆さん方今東京にいらつしやるが、東京の言葉は全部標準語ではありませぬから、そこは警戒を要し

ます。東京の方もこゝにいらつしやると思ひますが、東京はヒとシ、「シガシノ方カラオシサマガ出タ」といふ。ヒをシと誤るのが東京の方言です。東をシガシ、お日様をオシサマ。尤もオヒサマは少し努力が要る、オシサマが易しいが、そんな日本語はありません。正しくオヒサマといふべきであります。尤も教育のある人はそんなことはいひませぬが、オシサマといふ人も少くありません。此度参りましたも、いやになる程聞かされて居ます。東京の方には申譯ないが、東京の言葉は全部立派な標準語といふわけにはまゐりません。東京の言葉をそのまゝ學んでいゝとは思ひませぬ。

それからこれは皆さんの子供さんのことに關係があるから申して置きますが、ガです、皆さん方の子供さんの持つて居る教科書にはないが、ガに二たいろあります。東京の方の話をよく聞いて居ると、「私が」といふ場合のガの發音と、「學校」といふ場合のガと發音が違ひます。「學校」の方は文字通りガッコウで、「私が」の方は鼻に抜けてゆく、ガのやうに承知して居ます。ガギグゲゴは皆さうです。言葉の途中か終に来るガが全部、例へば「私が」とか「乃木大將」といふやうに鼻へかゝる軟い音になるのです。これは嘗ては東京地方の方言でありましたが、今日はこれを標準語に取上げて、國民學校ではこの音を標準語として教へて居ります。ですから子供さんが「私が」といふと、「何だそんな變な聲を出して」とお叱りにならないやうに願ひます。もう一ツ四國といふところは言語學的に面白いところとして、ヂとジ、ヅとズ、この區別の出来るのは土佐の專賣特許と申しますか、土佐の方はこの區別が非常に明瞭に出来る、又九州でも一部出来るところがありますが、全国的にいへばこの區別が出来るところは非常に少いのであります。

音の方は、時間がないので大體このくらゐに致しまして、此度は語法のことを申しあげます。さつき「關東ベイ」



と申しましたが、「ベイ」言葉が止みますならば借りても三百つん出すベイで、未來を現はす時に「行くベイ」といふやうに關東では「ベイ」を使ひます。今でも山形の邊にゆきますとかなり廣くこの「ベイ」言葉が使はれてゐるのでないかと思ひます。教育のある人は兎も角……。それから福岡縣の方か、福岡縣にお務めの方がかなり居ると思ひますが、福岡縣の博多にはワカといふものがあります。福岡地方の方言を基にして發達したものやうで、「ベイ」言葉が方言になつて居ます。長崎でいへばバツテンです。さういふやうな特殊な方言があります。それから本州の東で「よくいつた」、かういふところを西の方では「よういつた」といふ。それから否定の場合ですが、どうだ君も行かないか」といはれて、「行かない」と否定を現はす時に、東の方では「行かない」と、「ない」を使ふ。それは無論標準の言葉になつて居りますが、西では「いや僕はいかん」と「ん」を使ひます。それからこれは話し言葉には餘り出て来ないが、「きれいな花だ」、これは書き言葉ですが、京都、岡山などがさうでないかと思ひますが、「花じゃ」といふ、「じゃ」を使ふのが大體西の方であります。これは實地に蒐集したのでなく、本の上で讀んだのですが愛知縣を境に東と西で、「よくいつた」といふのを「よういつた」、「ゆかない」といふのを「いかん」、「花だ」といふのを「花じゃ」といふやうに西と東で言葉が違つて居ます。それから有名なのは大阪の「サカイ」言葉、「今日は暑いサカイ」といふ。ところが莊内地方になりますと「サウダスケ」といふことになります。これは廣く集めたら随分面白いだらうと思ひます。鹿児島は方言では極く特殊な地方で、「ヨカドン」といふやうな、そこに行きますと繪葉書などありまして、鹿児島語を標準語に直したものがあります。さういふやうに本州の東部と西部、それから九州とで語法の上で相當違つて居ます。

ところが語法の上の違ひよりも、もつと甚だしいのが單語であります。これはまことにいろ／＼さまざまで、柳田國男といふ先生がをりますが、當代一流の學者で、非常に博學の先生ですが、その先生に『蝸牛考』といふ本があります。これは日本全國の蝸牛の方言を集めた本です。この柳田先生の御研究によりますと、日本全國に蝸牛の方言が、異つた呼名が五百以上あるさうです。これは語法などの到底比較にならないものと思ひます。昨夜も或る人にあつたが、その時も出たのですが、この机のかういふところ(端)を九州地方ではどういふか知りませぬが、「ハジ」の方に置いてくれ」といふやうにいふ人がかなり皆さん方の中にも多いのでないかと思ひます。「ハジ」といふのが東の方に多い、西は「ハシ」といふ。それから丁度今季節ですが、「茄子」、あれを「ナスビ」といふ。それから物を借ることを「カリル」といふのもある。又「メダカ」……「メダカサン」メダカサン」といふのが教科書にもありますが、あの目高の方言の数は千以上あるさうです。皆さん方は各々出身地方が違ふでせうから、假に蝸牛とか目高の言葉を晚にも集めたら面白いだらうと思ひます。私の方でも目高を「サルメ」といふ。ところが大阪では「ウキタ」といふ。或る地方では「コマイジャコ」「メメジャコ」といふところもある。これは伊勢です。一つのものの名に千もあるといふことになる、國語といふものは全くやゝこしい……「ヤヤコシイ」も方言で、かういふ公の場所に使ふべきではないと思ひます。かういふやうに單語になると語法や音韻などより數がすつと多い。方言の變つたのには「空にかゝれる虹みればわが心をどる」といふ詩がありますが、この虹は關東及び東北地方では「ノジ」、近畿地方は「ネジ」、これはアクセントを變へると螺旋になる。中國地方では、姫路邊で虹を「ニンジン」といふ。それから「ミョージ」といふやうなところもある。さういふやうに虹といふ言葉もかなり全國的にいろ／＼に分化して居ます。それから尙ほ九州の方が多いだらうと思ひますから、私より御存知だと思ひますが、薩摩諸です。「サツマイモ」が標準語だらうと思ひますが、さうして東日本では大體「サツマイモ」一色のやうですが、「リュウキュウイモ」といふのが中國から四國



一體に通用する言葉らしい。それから九州、殊に北部の福岡、長崎縣、あの附近では「トウイモ」が普通である。それから鹿児島などは「カライモ」といつて居るのでないかと思ひます。これらは傳來のものであるので、唐語、唐語、琉球語、薩摩語、かう並べてみますと、このものが傳來して來た道順を名前が示して居る。それで物と言葉の關係といふやうなものを研究するにはこの薩摩語といふやうなものはかなり面白いだらうと思ふのであります。

この單語は頗る動き易い。といふのは、例へば虹のことを「ニンジン」といふのは國の言葉だから拙い、これは改めなければいけないといふやうなことを考へて、直さうと思へば割に早く直る。詮り變り易い、變へ易いのです。さうして又始終浮動して居るから變化が甚しいから、これを矯正しようと思へばできるのですが、語法になりますと、それよりも稍固定して居りますので國言葉が抜けるに單語程簡單にはいかない。東京へ出て來て東京の人達が使ふ單語を使ふことはもの二月も経てば或は出來ようと思ふのですが、東京の言葉になるには少し月日を要する。ところが音韻は、これは試に保守的で、私が今もつて時にイとエの區別を誤るといふやうなのは、もう身體の髓まで染み込んで居つて、なか／＼直すに直されないといふ、病氣でいへば慢性病といふやうなもので、なか／＼直し悪いものであります。

ところが身についた訛といふやうなものが一體直るか、直らないか、これは國語教育にとつて非常に大きな問題だと思ひます。このことを少しお話してみたいと思ひます。私は新發田といふ田舎の町の中學校を出たのですが、その新發田に下町といふところがあります。そこに神明様といふお宮があります。それを「スバタのスモマツのسنメイサマ」とよくいつて馬鹿にされたものであるが、私共も今日ではスバタや、スモマツなどいはないでも濟むやうになりました。これは教育の程度によります、本人の自覺にもよりますから一概にいへませぬが、教育と本人の自覺、努

力によつては或る程度まで最も困難な音韻も直るものであらうと私考へて居る。さうでなければ國語教育の効果といふやうなものは頗る心細いものであります。その一つの活きた例を私はもつて居るのです。東京へ参りましても、所謂東京の名所を見て廻るといふことは、殊に地理の不案内な私にはなか／＼時間がかかりますので大變です。今もありませんかどうか知りませぬが、遊覽バスといふ重要なものがあります。その遊覽バスに乗つて東京の高輪泉岳寺から本所の被服廠跡まですつかり見物するのが便利で、昨年私が出て來た序に、いつ出て來ても、震災記念堂まで行くことがなか／＼出來ないので、まあ田舎者になつて……といつて根が田舎者ですが、一日新橋から遊覽バスに乗つて、東京見物をしました。丸の内に入りまして、官衙街を通り抜けて、宮城前に参りました。御承知のやうに遊覽バスには婦人の案内人がついて居つて、「お客さんに申し上げます、右に見えますのは……」何とかいつて案内しますね。その案内人は普通にはバス・ガールといつて居るやうですが、それに相當する國語があります場合はなるべく外國語を使はないで國語を使ふといふ、かういふ建前は大事だと思ひますので、私は案内人と申します。その案内人が「向かふに見えます大門は安政の昔井伊大老が」といつたやうな名調子で、澄み透つた聲で案内する。そのことを京城へ歸つて話したら聲にみとれたのでなく顔に惚れたのだらうといふことであつたが、まあそれはどちらでもいゝとして、兎に角そこで下りて宮城遙拜して馬場先門まで歩きました。その時私厚がましくもその案内人に尋ねてみた。「あなた何處の生まれですか」と。さうしたらまだ若い、二十一二の妙齡の婦人であるその人が「福島に生まれました」といふ。福島といふと餘り言葉の上等でない、「マンズウ」の方だと思つてゐたのに、聲は誠に標準的な立派な聲である。「お國の方には幾つまで居りましたか」と。まあ厚かましい話ですが、これも道の爲であると思つて聞いてみると、「女學校を國でやつて、それから出て來ました」といふので、「何年に卒業して」とまではさすが私も聞けなく



て「あゝさうですか」と。年齢から想像致しまして、東京へ出て来て長くて三年。さう致しますと福島田舎から出て来て、そのくらゐで今日は立派な國語になつて居る。それで私考へました。若しもあの婦人が東京へ出て来て依然として國訛りを使つて居れば、言葉を世すぎにする案内人の試験には通らない、言葉が難關であつたであらうと思ふ。それで相當努力した結果あゝいふ立派な言葉になつたらうと、かう私解釋しました、當つてゐるか、どうか知りませぬが。さうすると本人の心掛け次第では言葉といふものはやつぱり直るのだなと、かう考へた。ところがその翌日でしたか、だん／＼私の國の方の先輩が居りますのですが、一夕さるところで御馳走になつた。やつぱり國の方のものがよく出入りする料理屋ですから何か國の關係があるらしい。そこへ出て来た小女、料理を運んだり、お酒をついだりする小女が、料理が揃つて、「さあ」といふ譯で始つたところが、その小女が私に「お兄さんは越後ぢやありませんか」といふ、「ぢやあ聞かぬが、あなたも越後ぢやないか」と聞き返すと、「私柏崎です」といふ。それは新潟縣で、石油の出るところです。向かふが「どうして分りましたか」とも「こちらも」どうして分りましたか」といつて、はははと笑つてしまつたが、私も久振りでもない、毎年來るが、懐しい國の古い友達などと一緒になればさうくばらんに、俺、お前で國の言葉で話すので、自然國の言葉が出る、それで分つた。そこで私昨日遇つた自動車的女案内人とその料理屋で働いて居る小女と比べて考へてみると、「何時來たのだ」といふと「三年になる」といふ。大體同じ年數である。それなのに一方はきれいに國の言葉を脱ぎ捨てて、誠に齒切れのいゝ澄んだ言葉になつて居る。一方は變な國の訛をもつて居る。で、何故一方は東京のいゝ言葉になつてゐるのに、こちらの子は依然として國訛が脱けないのか。教育の差と本人の言葉に對する心構への違ひが、これとこれとをこんなに千里雷壤の差を來したのでないか、さういふことを考へると、言葉といふものは生まれた時から身についた國訛といふのも本人の教育と、本人の努力、

心掛けによつて必ずしも直らないものではない、殊に今日はいふ方面に學校教育では非常に骨を折つて居る。さういふやうなことからいつて、國の訛を強ち氣にすることは要らないが、努めて自分の訛を自覺して、その訛を自分の身體から洗ひ落すことに骨折るならば、やがては立派な標準語を身につけることが出来るやうになるのぢやないか、國語の指導に當る人は願はくばそれを考へて、立派な訛のない言葉を身につけて、そして教はる人に標準の純粋な國語を教へるやうに力を盡さなければならぬのでないか、かういふやうに考へて居るのであります。

過去における我國の國語教育は言葉の教育の上にぬかりが多かつた、その爲に未だに地方々々で、その地方の訛がある。詮り發音の上の教育に不十分な點が多い、それで、手紙のやりとりならば恐らく青森縣と鹿兒島縣の人が十分に意思を通することは出来るだらうと思ひますが、或は會つて話をすればその間多少意思の疎通を缺くやうな場合がなきにしもあらずでないかと思ひます。こゝで所謂國民學校でも音聲言語の教育といふことが重要に取上げられています。皆さん方のことについて少しく考へてみると、北海道から樺太、或は九州といふやうに、それ／＼の地方にはそれ／＼の地方の方言が行はれてゐます。只樺太は比較的新しく内地人が渡つた地方であるので、九州などに比べて餘り方言といふものが、さつき申上げた方言の分布にも擧げてないやうに根強く根をまだおろしてゐないと思ひますが、それでもその地方には相當方言が存在するだらうといふことが一應考へられます。そのことは私の住んで居る朝鮮のことから類推が出来るのであります。朝鮮も併合以來三十三年です、無論それ以前にも日本人はこちらから渡つて行つて居るのでありますが、今日では、或は皆さん方は朝鮮では全く標準語が行はれて居つて、方言などは探してもあるまいといふやうにお考へになつて居られるかも知りませぬが、残念ながらさうぢやないのです。かなり廣く誠にかんばしからぬ内地の方言が行はれて居ます。地理的な關係から最も廣く行き亘つて居るのは九州地方の方言、そ



れから中國地方の方言で、私共國語教育の責任の地位にあるものはこの問題について相當頭を悩まして居るのであります。こんな例があります。朝鮮では田舎と申しますと、内地の田舎と事違ひまして或る學校になりますと、その學校の校長先生の家族だけが内地人で、あとその部落には内地人が一人も居らないといふやうなところが珍しくない。九州の或る地方の出身の校長先生がさういふ内地人の居らない學校の學校長として何年か教鞭をとつて居られた。無論その外は全部朝鮮人である。そこでその校長先生が不覺にもお國訛をかなり率直に無遠慮に出して子供を教へて居る。それが一年やそこらでなくて、二年、三年、何でも五年ぐらゐその學校に勤續されてから外へ轉任されて、別の校長先生がかはられて來ました。ところが五年の長い間、朝晩その訛で、方言で教育されたのですから、その生徒はその方言にすっかり馴されてしまつてゐます。後から來た先生はそれとは違つて標準の國語を操りました。ところが實に奇怪なことには、生徒は「此度の先生の言葉はとてもおかしいもので、さつぱり分らない」といひ出した。實に大問題である。それでわい／＼いひ出した。監督の責任にある人達が困つて、その學校へ行つてみたら、豈圖らんや生徒の使つて居る言葉は九州地方の言葉である。後の先生の言葉は標準語である。今日はさういふことはありませぬが、十數年前にさういふ事實があつたのです。そんな例がありますやうに、今日朝鮮では不幸にも内地の方言がかなり種をおろしてゐるのであります。

先年京城府の教育會で京城府内の内地兒童の口にして居る、或は作文その他にあらはれた方言や訛語を集めたことがあります。その結果約三百近い言葉がひろはれました。詮り方言、訛語が三百近くもありました。それを私一部戴いて見たのですが、無論全部が全部方言といふものでないものであります。兎も角もその數の多いには驚きました。違つた或る二つの言葉が接觸する場合には互に影響を受けます。國語と朝鮮語の場合を考へれば、國語の中へ朝

鮮語が混つて來る。この京城府の教育會の調査の中には朝鮮語が混つて來て、それが朝鮮語でない國語のやうになつた言葉がいくつもあります。このことは皆さんの方でも十分御注意願ひたいと思ひます。あくまでも國語の純粹を吾々は守らなければなりません。朝鮮語として朝鮮語を使ふのはいゝが、國語の中に朝鮮語を混ぜるといふことは、これは嚴重に考へなければなりません。それで方言の問題ですが、方言そのものの善惡をこゝに喋々しようとは思ひませぬ。私が申上げて居る趣旨は國語教育、國語の指導といふ立場で方言の問題を扱つて居るのであります。學問としてはそれは方言研究の價値は十分あります。今、私が申上げて居るのは國語教育の立場から申上げてゐるのです。誤解のないやうに願ひます。

それで純粹なる國語、混りけのない正しい國語の教育、私共の目指すものは正しくそれではなければなりません。その立場からいへば方言は嚴重に吾々は閉め出しを食はせなければならぬものであります。このことは一つ十分頭に置いてかゝらなければならぬものであります。この國語の純粹を守る、國語の純潔を守るといふことはやがてこの世界無比の我が國體を守るといふことの根本に通ずる極めて大切な問題であります。上田萬年博士が、明治二十八年日清戰爭の直後であります。『國語と國家』といふ論文を發表されました。その中に「國語は皇室の藩屏なり、國語は國民の精神的血液なり」といふ言葉がありますが、有名な言葉ですから御承知かと思ひます。國語こそは一億を一つの心に結びつける何よりも強いものであります。それで私共は純粹なる國語を守り立てて、この純粹なる國語の教育によつて所謂國民教育を進めてゆかなければならぬのであります。今日國語愛護を叫ばれる所以は實にこゝにあるだらうと思ふのであります。この國語愛護の問題を考へる時に思ひ出されますのは、何も外國の例をもつて來なくてもいゝが、又他山の石にならうと思ふので申しあげます。フランス人は誠に言葉に對しては慎み深い國民でありま



す。例へばアカデミーといふものがありまして、或る外國語、まあ英語、ドイツ語などと接觸して居りますが、或る外國語を自分の國に取入れる場合には國家最高の機關であるそのアカデミーに諮つて、この言葉を今日以後フランス語として取入れていか、どうか、といふやうなことを慎重審議した上で決める。フランス語にゼントルマンといふ言葉はない、今日あるのは英語をさういふやうに慎重審議して取入れた一つであります。誠にフランス人は自國の言葉に對して高い誇りを持つて居ます。多少過ぎてゐるやうなこともあります。フランス人はイギリスの言葉は商人の言葉だ、ドイツの言葉は悪魔の言葉である、そしてフランスの言葉こそは神の言葉であるといふやうなことをいつて居るさうです。この言葉は自國の言葉に對する高い誇りを物語つて居るであらうと思ふのであります。

今日我國は大東亞の、否世界の盟主、指導者として全世界を指導すべき高い位置に立つべき使命を帯びて居ります。その指導に日本語の占める地位がどうかといふことは私から申し上げなくても、「言葉こそは文化の魁」と申しますやうに、絶對のものでありますから、私共は神代以來の我が國の國語を守り育てて、更にこれに磨きをかけて豊かなもの、美しいものにしてこれを吾々の子孫に傳へ、大東亞共榮圈の共通語、世界の共通語として恥しくないものにするといふことを考へなければなりません。それには指導者そのものが先づ立派な國語を身につける、指導者にふさわしい國語の持主になるといふことが先決の問題ではないかと思ひます。

翻つて問題をお互に向けて考へてみると、皆さんが直接の指導の對象である朝鮮人を考へる時に、朝鮮人の指導に占める國語の重要性、これは私が不十分ながらも今まで朝鮮における國語普及の問題その他について申し上げましたこととで大約御理解を得たらうと思ふので重ねて申し上げますが、それについても純正なる國語を身につけるといふことが指導者の第一の要件ではないかと思ふのであります。私が縁の遠い方言の問題などを極く概略ではあ

つたが申し上げて、更に一旦身につけた國の訛といふやうなものも本人の努力によつては強ち直らないものでもない、否努力によつては必ず直るだらうと思ふといふやうなことを、乏しい例ではあります。申上げたのは、全く私の考へるところが是非皆さん方、それは皆さん方は立派な國語の持主でありませうが、皆さん方の下にいらつしやる方に、若しさういふ方があるならば、先づ第一に指導者の國語を醇化するといふことから手始めにして戴きたいといふことを考へるからであります。國語の重要性については幾ら申上げても足りないものであります。昔の人が「言葉は心の聲である」といふことをいひ残してあります。さうしてこの言葉を磨くことは、言葉を醇化することはやがて心を磨くことであるといふやうな語を残してあります。直接には指導者の資格として、更に又自らの向上發展の爲にさうした道にいそむといふことは大切なことであらうかと思ふのであります。

大體以上で私の話を終りたいと思ひますが、從來私は協和事業に對しては、申譯ないことですが、昨年下關で協和教育研究會がありまして、私共の課長が列席して、大體の様子を伺つて居りましたが、協和事業に對する認識は全く認識不足であつたのですが、此度こちらへ参りまして、いろ／＼承はりました。協和事業の重要な意義といふやうなことを遅ればせながら少し分りかけて参つたのであります。資料を戴いて歸りまして、更に勉強しまして、若し朝鮮に居りまして皆さん方のお役に立つやうなことがあれば、これは朝鮮でも内地と、最初に申上げたやうに、土地は變つて居りますけれども、仕事は全く一つであらうと思ひますので、今後若し出来るなら互に手を取りあつて、この國家的な大きな仕事に進んでゆくといいやうなことにしたいと今考へて居るのであります。



967  
141

昭和十八年八月二十五日印刷  
昭和十八年八月三十日發行  
(11000部)

協和叢書第十六種  
◎定價(送料共)六拾錢  
特別行爲稅五錢  
賣價六拾五錢

認承協文出  
190207號

編輯兼  
發行人  
吉村良司  
東京都麹町區大手町一ノ七  
厚生省生活部内

印刷者  
川口芳太郎  
東京都墨田區西新三ノ二  
東京都墨田區西新三ノ三

印刷所  
東京東區川口印刷株式會社  
東京都墨田區西新三ノ三

發行所  
財團  
中央協和會

東京都麹町區大手町一ノ七  
厚生省生活部内  
電話九ノ内(三)二〇一三九  
換替口廣東京一四四、四六〇番



967  
E  
141

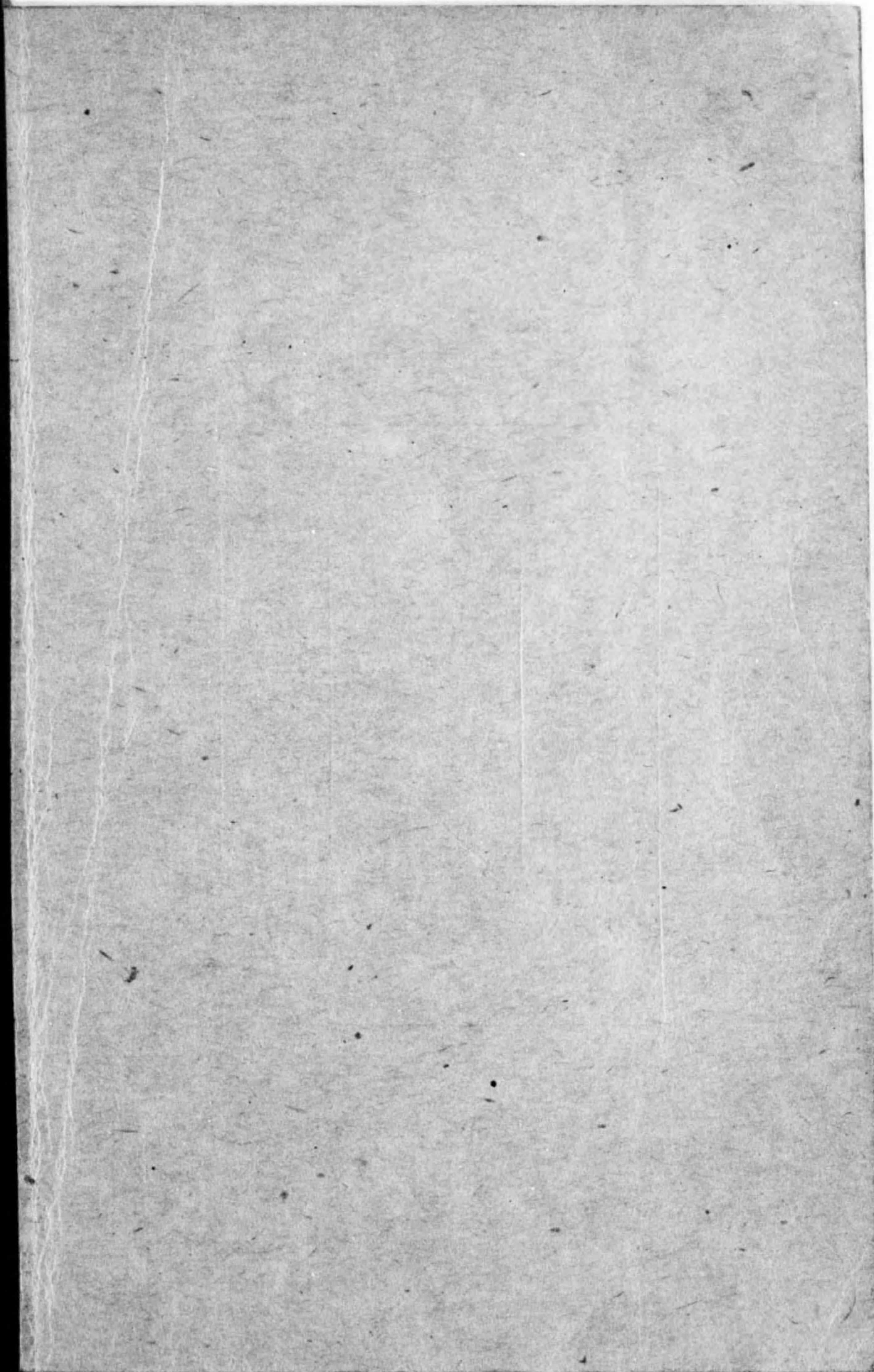
昭和十八年八月二十五日印刷  
昭和圖書第十六號

製本控 同第 號

967	國	號	年	月	日
普名	國親の教へ方 ( )				
著者	( 氏 氏 中央圖書 )				
受入	年	月	日		冊
備考					



967  
141





終

